

国際科学技術共同研究推進事業
地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)

研究領域「開発途上国のニーズを踏まえた防災に関する研究」

研究課題名「メキシコ沿岸部の巨大地震・津波災害の軽減に向けた総合的研究」

採択年度：平成27年（2015年）度/研究期間：6年/

相手国名：メキシコ合衆国

令和2（2020）年度実施報告書

国際共同研究期間^{*1}

2016年 5月18日から2022年 5月17日まで

JST側研究期間^{*2}

2015年 6月 1日から2022年 3月31日まで

（正式契約移行日2016年 4月 1日）

*1 R/Dに基づいた協力期間（JICAナレッジサイト等参照）

*2 開始日=暫定契約開始日、終了日=JSTとの正式契約に定めた年度末

研究代表者：伊藤喜宏

京都大学・准教授

研究題目・活動	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31/R1年度	R2年度	R3年度	22
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	
研究題目C: 現地需要に即した地震・津波減災教育プログラムの作成								
C-1脆弱性とリスク評価								
土地台帳に基づく構造物の脆弱性評価								
1, Acapulco, 2 Nuevo Amanecer		-----●						
3. Ixtapa 4. El Papayo			-----●					
5. Zihuatanejo 6. Barra Vieja				-----●				
2010年国勢調査結果に基づく社会経済の脆弱性の評価								
1, Acapulco, 2 Nuevo Amanecer		-----●						
2. Ixtapa 3. El Papayo			-----●					
5. Zihuatanejo 6. Barra Vieja				-----●				
構造物および社会経済の脆弱性評価結果のGIS表示システムの開発				-----●				
B-1, B-2による強震動予測地図、地震・津波ハザードマップのGIS表示の開発					-----●			
リスクマップおよび避難誘導標識の開発			-----●		-----●			▼
リスクマップおよび誘導標識の運用および仕様の確立							-----●	▼
地震・津波リスクシナリオの作成および評価					-----●			▼
地方行政に向けた地震・津波減災にむけた行動計画の構築と公共政策の策定							-----●	▼
C-2教育プログラムの作成と普及								
沿岸部やメキシコシティ等で現地の地震・津波災害に対する意識調査を実施。		-----●						
沿岸部における過去の津波災害に関する資料の収集及び聞き取り調査の実施（計画、10人以上のインフォーマントへの指示出し、取りまとめ）		-----●						
既存プログラムの現地での試行とデータ収集		-----●						
地震・津波減災教育プログラム（プロトタイプ）の開発（プログラム：ゲーミング手法、冊子、アプリ）				-----●				▼
教育プログラムの実施および普及の実現					-----●		-----●	▼
地域コミュニティや学校等における教育プログラムの実践						-----●	-----●	▼
過去の津波被害のアーカイブ化と博物館等での企画展示の開催				-----●			-----●	▼
プログラム全体の評価及び検証					-----●		-----●	▼
早期警報システムと地方行政との連携による、減災教育プログラムの推進と将来の巨大地震・津波に対する準備の推進							-----●	▼

研究課題 A、B、C 共通

▼（赤）：COVID-19による影響による日本人専門家及び現地研究者らの活動制限による修正箇所を示す。

(2) プロジェクト開始時の構想からの変更点(該当する場合)

日本・メキシコ両国を含む全世界的なコロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年度に予定していた全ての渡航活動を中止または延期した。このため、研究期間を1年間延長することとした。延長期間における令和3年度の活動内容のほぼ全ては、令和2年度に予定していたものである。

2. プロジェクト成果の達成状況とインパクト (公開)

(1) プロジェクト全体

(1) -1. 達成状況の概要

ゲレロ州沿岸部における地震・測地観測網の強化、地震活動のモニタリング能力の向上、巨大地震とスロー地震のモデル化、地震動・津波シミュレーションおよび沿岸部における地震・津波防災教育の普及に向けた研究をメキシコ側の共同研究機関と実施した。さらに、プロジェクト成果のメキシコ国内への普及を目的としたシンポジウムや一般向けのワークショップも多数開催した。特に、世界津波の日に関連したイベントとして、共同研究機関のメキシコ国立防災センター (CENAPRED) と協力して一般向けのセミナーを開催した。さらに国内における防災関連のイベントにも参加し、本プロジェクトの日本国内への普及に向けた講演を行った。さらにプロジェクト成果の発信を目的としてプロジェクトのウェブサイトを作成した。また、観測記録共有を目的としたデータサーバの構築も行った。

(1) - 2. 世界津波の日関連イベントのウェブ開催

11月5日にCENAPREDと共催で、国連世界津波の日記念セミナーをオンラインで開催した。特にYouTubeによるオンライン配信では中野元太(京都大学)がシワタネホ市防災局のラファエル・バルドビノ氏とともに「メキシコと日本における防災教育の異同」と題した発表を行った。動画の再生回数は2021年3月24日段階で1740回を超えている。

(1) - 3. 第5回合同調整委員会

第5回合同調整委員会 (JCC) 会議を以下のように開催した。

(1) 日時： 2020年12月2~3日(木/金) 17:00/8:00-19:00/10:00(メキシコ/日本)

(2) 場所： zoom(オンライン会議)

(3) 参加者：メキシコ側20人、日本側17人、合計37人

(4) 概要：

冒頭で、AMEXCID、UNAM地球物理学研究所、CENAPRED、ゲレロ州市民防災局、JICAメキシコ事務所からの挨拶があり、メキシコ研究代表者からSATREPSの概要と課題およびコロナウイルス感染症によるプロジェクトへの影響について説明がなされた。その後、日本研究代表者から研究期間を1年間延長することをJSTおよびJICAと協議していること、その上で延長期間1年間の活動およびイベントの計画の説明がなされた。最後にJCCを総括し、議事録(ミニッツ)への署名の準備を進めた。会議は、業務調整員を中心に、京都大学、UNAM、JICAメキシコ事務所とで事前に調整し、両国研究関係機関、AMEXCIDにもコメントを得ていたことから、JCCは円滑に実施された。JCCで

【令和2年度実施報告書】【210531】

の主たる確認事項は以下のとおりである。

- ① 2020年11月までの活動状況
- ② 日本・メキシコ研究メンバーの更新
- ③ 研究期間の1年間の延長と活動内容
- ④ プロジェクト最終ワークショップの日程および内容

(1) - 4.サイエンスウェビナー (3週連続開催)

2021年2月12日、19日、26日のそれぞれ午前8時から10時(日本時間)にプロジェクト参加研究者によるサイエンスウェビナーをオンライン(zoom)で実施した。このウェビナーではプロジェクト期間で得られた主要な成果についてプロジェクトメンバー間で共有した。また、延長期間となる令和3年度に取り組むべき重点的課題についても議論した。3日間でのべ15人による講演がなされ、発表内容について活発に議論した。

(1) - 5.人材交流および育成体制

計2名のポスドクを直接雇用し研究活動を推進した。文部科学省の国費留学生としてメキシコから学生1名を2018年10月から博士課程後期の大学院生として京都大学で受け入れている。当該院生は、2019年1月から9月まで東京大学理学系研究科に研究委託の学生として滞在し、プロジェクト全体で人的支援を実施した。

(2) 研究題目 A : 地震・測地観測に基づくプレート間固着状況の解明

項目 A-1 「海底観測」(リーダー:伊藤喜宏)

- 項目 A-1 の当初の計画(全体計画)に対する当該年度の成果の達成状況とインパクト

これまで海底地震計および海底圧力計の準備を進め、2017年11月からグレロ州沖合に海底地震観測点7点、海底圧力観測点7点の観測網を構築した。2018年11月および2019年11月にはそれぞれ前年度設置した機器のデータ回収を行った。2021年現在、海底地震観測点7台および海底圧力計3点が海底に設置されている。航海中に取得されたマルチビームエコー記録の解析を前年度から引き続き実施し、浅部の堆積層について詳細な解析を進めた。海底地震計および圧力計の観測記録の解析を進めた。海底地震計記録で得られた波形記録から浅部低周波微動のメカニズム解を推定した。また海底地震計記録に含まれる常時微動を用いたH/Vスペクトル法により、観測点周辺の浅部地震波速度構造を推定し、マルチビームエコー記録の解析結果と比較して手法の妥当性を確認した。海底圧力記録に含まれる非潮汐成分の解析を進め、2点間で観測される非潮汐成分の水深依存性を見出した。

- 項目 A-1 のカウンターパートへの技術移転の状況

2018年10月に京都大学に入学した留学生(Raymundo Omar Plata Martínez)を国費外国人留学生として受け入れ、海底地震計記録の解析方法の指導を行うとともに、日本国内で実施された調査航海(調査海域:日本海溝)に参加させ国内の最新の海底観測技術について指導を行った。当該留学生は、メキシコ国内での持続的発展を視野に入れつつ、若手研究者の育成事業の一環としてプロジ

【令和2年度実施報告書】【210531】

ェクト全体でサポートされている。

- 項目 A-1 の当初計画では想定されていなかった新たな展開

コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、令和 2 年度は航海による海底観測を実施できなかった。予定していた航海は令和 3 年度 11 月に実施予定である。

- 項目 A-1 の研究のねらい (参考)

A-1「海底観測」では、メキシコ沿岸部で最初の海底地震・測地観測網を構築する。海溝軸付近の海底に 4 台の海底圧力計を設置し、定常プレート運動・地震およびスロースリップに伴う上下地殻変動を観測する。同時に海底地震計を設置して、地震活動や地下構造を詳細に調べる。さらに海底堆積物調査を実施し、過去の巨大地震の活動履歴を調べる。

- 項目 A-1 の研究実施方法 (参考)

研究期間の 1 年目は設置予定の海底圧力計 4 台および海底地震計 5 台の準備を行い、2 年目にそれらを海底に設置する。高性能音響モデムを備えた海底圧力計は、4 年間海底に設置される。2-4 年目は研究船舶から音響モデムを介して観測データを年 1~2 度回収する。5 年目には設置した海底圧力計の回収作業を行う。のべ 21 台の海底地震計を 3 カ年で設置・回収作業を行う。研究期間の 2 年目に 7 台の海底地震計を設置する。3 および 4 年目は前年の 7 台の回収および新たに 7 台の設置作業を行う。5 年目に 7 台の回収作業を行う。これらの観測機器の設置・回収に際して、海溝付近の 10 ヶ所程度でピストンコアリングによる海底堆積物採取や海底地形および表層地質の調査を実施し、堆積の構造解析から過去の巨大地震の履歴を明らかにする。

これらの研究を通して、海底地震・測地観測網の整備により海底下で発生するゆっくり地震の検出を試みる(メキシコ沿岸部初)。また、既存の陸上観測網では、明瞭に示すことのできなかったスロースリップ域の海側限界を初めて観測から明らかにする。さらにゆっくり地震の解析に加えて、小繰り返し地震を含む通常の地震活動やプレート境界近傍の地下構造(地震波速度・減衰構造および異方性)を詳細に調べることで、沈み込み帯の地震の発生様式の解明を目指す。また、海溝軸近傍の津波堆積物調査と陸上の結果を総合的に解釈し、メキシコ沿岸部で過去 1000 年の間違に数百年スケールで繰り返し発生する超巨大地震の発生の可能性を評価する。

項目 A-2「陸上観測」(リーダー：井出哲)

- 項目 A-2 の当初の計画(全体計画)に対する当該年度の成果の達成状況とインパクト

ゲレロ州沿岸地域に 2017 年度までに設置した広帯域地震計と GPS 観測網のデータは、数か月に一度の現地収録を回収しつつ順調にデータが集まっている。このデータを整頓し、2018 年度および 2019 年度に回収した海底地震観測データとデータベースに統合した。この統合データを分析し、テクトニック微動を検出、地域の地震活動、繰り返し地震活動、重力観測値と比較し、対象地域の地震テクトニクスについての概念的モデルを構築した。またグループ B-1 と協力して、2017 年の M8.2 の地震の応力変動に伴って発生した微動の誘発現象を分析し、その結果をまとめた。

- 項目 A-2 のカウンターパートへの技術移転の状況

2019 年 1 月より 2019 年 8 月まで東京大学の研究指導委託学生として受け入れた、京都大学の留学生 (Raymundo Omar Plata Martínez) に対して、海底地震計データと陸上観測点データの併合処理の方法、震源メカニズム解の推定手法とその検証方法について引き続き指導を行った。

- 項目 A-2 の当初計画では想定されていなかった新たな展開

コロナウィルス感染症拡大の影響を受けて、プロジェクト自体延期になったことで、微動カタログの最終版を作成する作業を延期した。

- 項目 A-2 の研究のねらい (参考)

A-2「陸上観測」では、既存の陸上地震・GPS データを再解析し、プレート間固着状況の長期時間空間変動を求める。また、スロースリップ発生期間における他のゆっくり地震を含む多様な地震活動の統計的な特徴や相互作用を網羅的に調べ、それらと日本の地震とゆっくり地震のふるまいとを比較検討することで、相違点の原因を探る。また、グループ A-1 で設置する海底地震・圧力観測の結果と併せてプレート間固着状況を調べて、対象地域の震源モデルを構築する。

- 項目 A-2 の研究実施方法 (参考)

A-2「陸上観測」では、既存の陸上地震・GPS データを再解析し、プレート間固着状況の長期時間空間変動を求める。また、スロースリップ発生期間における他のゆっくり地震を含む多様な地震活動の統計的な特徴や相互作用を網羅的に調べ、それらと日本の地震とゆっくり地震のふるまいとを比較検討することで、相違点の原因を探る。また、グループ A-1 で設置する海底地震・圧力観測の結果と併せてプレート間固着状況を調べて、対象地域の震源モデルを構築する。

研究期間の 1-2 年目で地震・測地観測点の追加・整備を行う。新たに 12 台の GPS 観測点、および 6 点の広帯域地震計をゲレロ沿岸部に設置することで、ゲレロ周辺における観測点数を従来の観測網の 2 倍程度まで向上させる。この新観測網を用いて、研究期間中に大規模スロースリップを 1 回以上、小規模スロースリップを 5 回以上観測することを目指す。また、既存の陸上地震・測地観測記録を精査し、未検出のゆっくり地震の検出やゆっくり地震による通常の地震の誘発現象や相互作用を調べる。これらの調査の成果を用いて、新たな観測網下における各種現象の検出率を 2~3 倍以上に向上させる。改善されたカタログを用いて、ゆっくり地震のすべり方向の決定精度を現状の倍以上に向上させる。2 年目以降は、海底観測記録と陸上観測記録から推定されるプレート間固着状況に基づき震源モデルを構築し、必要に応じて年度毎に修正を加える。また、研究期間の 2-4 年目には、逐次得られる海底観測網のデータと陸上の観測記録を用いて、実体波の走時・減衰トモグラフィや地震波干渉法を用いた表面波トモグラフィ法により地下構造の推定やその異方性の推定を行う。

(3) 研究題目 B : 地震・津波モデリングに基づく津波・強震動シナリオの構築

項目 B-1 「地震モデリング」(リーダー: 吉岡祥一)

- 項目 B-1 の当初の計画（全体計画）に対する当該年度の成果の達成状況とインパクト

ゲレロギャップを含む地域で、ココスプレートの沈み込みに伴う温度・脱水分布について 3 次元熱対流モデルを用いた数値計算を行った。これまで行ってきた海溝の後退やプレート境界面での摩擦熱などのみの効果では地殻熱流量とキューリー点深度分布の観測データを包括的に説明しうるモデルの構築が困難であったため、新たな効果としてプレート境界面付近に薄い低粘性層を導入し、低粘性層の深さ、厚さ、粘性率を変えた数値計算を行い、温度場、及び流れ場に対するパラメータ依存性を調べた。その結果、これら 3 つのパラメータの中では、低粘性層の深さの寄与が最も大きいという結果が得られた。強震動モデリングに関しては、不均質震源断層モデルの検討を継続し、強震動の同定手法と表面波抽出法について日本側及びメキシコ側メンバーで情報共有を進めた。

- 項目 B-1 のカウンターパートへの技術移転の状況

古地震調査のための海岸段丘を対象とした数値地形モデルについて、既存モデルを補完するより高分解能なデータを取得するためにドローンを用いた観測計画を Ramírez-Herrera 博士と検討した。

- 項目 B-1 の当初計画では想定されていなかった新たな展開
特になし。

- 項目 B-1 の研究のねらい（参考）

B-1「地震モデリング」では、項目 A の結果に基づき、特にゲレロ地域の震源モデル、スロースリップイベントと地震発生サイクルモデルを構築する。また海洋プレートの沈み込みに伴う温度構造モデリングを行い、項目 A で得られた測地学的なプレート間固着状況と比較する。さらにグループ A の震源モデルと既存の地盤モデルに基づき、ゲレロ地域の巨大地震による強震動予測地図を作成し、地震シナリオおよびハザードマップを構築する。

- 項目 B-1 の研究実施方法（参考）

グループ A で得られたプレート間の固着状況、ゆっくり地震を含めた多様な地震活動および地下構造に基づき、巨大地震の地震サイクルモデル、強震動予測地図、スロースリップモデルおよび地震シナリオを構築する。ここでは、3 次元動学的数値シミュレーションにより速度・状態摩擦則を取り込んだ数値シミュレーションを実施する。シミュレーションで用いる各種パラメータはグループ A で得られる観測値に基づき設定される。これらのシミュレーションでは確率論的震源モデルに基づき、巨大地震に伴う沿岸部の強震動や海底を含む沿岸周辺の地殻変動を評価する。特に海底の上下地殻変動は、次のグループ B-2 の津波シナリオ構築に活用される。

また、海洋プレートの沈み込みに伴う温度構造モデリングを行う。3 次元プレート形状、海洋プレートの年齢の空間分布、沈み込み履歴、沈み込み速度をインプットデータとし、地殻熱流量データに合致するようなプレート境界での温度構造モデルを構築し、プレート境界で熱的に推定される地震発生域を求める。また、項目 A で得られた測地学的なプレート間固着状況と比較する。さらに、グループ A の震源モデルと既存の地盤モデルに基づき、各観測によって推定された震源モデルに基づいたゲレロ地域の巨大地震について強震動を計算し、地震動災害に関する強震動予測地図

を作成し、地震シナリオを構築する。

研究期間の1-3年目で、ゲレロ地域における地震サイクルの予備的モデル、震源モデル、スロースリップイベントのモデル、温度構造モデル、および強震動モデルのプロトモデルを構築する。3-4年目は、サブテーマAの観測結果および震源モデルに基づき各モデルを逐次修正する。3-5年目はゲレロ空白域における巨大地震に関するシナリオおよび強震動予測地図および地震ハザードマップの作成を行う。

項目B-2「津波モデリング」(リーダー:森 信人)

- 項目B-2の当初の計画(全体計画)に対する当該年度の成果の達成状況とインパクト

津波波源のプロトタイプおよび確率津波モデルをシワタネホ周辺対象にシミュレーションを実施し、様々なシナリオを対象に遡上・浸水モデルによる浸水のアンサンブル計算を実施した。確率津波モデルを改良し確率津波モデルを拡張し、ランダムフェーズモデルとロジックツリーモデルの両方で確率評価を可能とした。さらに津波警報システム開発に向けた津波モニタリングシステムの理想的配置について確率津波モデルの結果を応用して検討を進めた。

- 項目B-2のカウンターパートへの技術移転の状況

今年度は、UNAMのOctavio Gomez Ramos氏を中心に、ビデオ会議を月1回継続的に実施し、津波ハザード評価のための海溝軸滑り域の考え方、津波シミュレーションの設定および感度解析、津波観測網の考え方について指導した。これらをもとに様々なシナリオを対象に遡上・浸水モデルによる浸水のアンサンブル計算をメキシコ側で実施できるように技術移転を進めた。これに加えて、2017年Chiapas地震津波を対象とした精度検証を進めた。

- 項目B-2の当初計画では想定されていなかった新たな展開特になし。

- 項目B-2の研究のねらい(参考)

B-2「津波モデリング」では、震源域の基本想定と津波伝播・遡上シミュレーションを行う。このため、ゲレロ地域周辺の海底地形および陸上地形の収集・計測を行う。グループAで求めた震源モデルの基本想定をもとに、さまざまな地震の震源過程の不確実性を考慮した確率津波モデルを構築する。得られた津波モデルをもとに、津波の伝播・遡上シミュレーションを実施、津波災害の被害評価を行い、津波災害に関する浸水域を推定し、津波シナリオおよびハザードマップを構築することにより、メキシコの標準的な津波評価技術を確立する。また、沿岸部の測地観測網や今後設置が期待される海底観測網を用いた津波リアルタイムモニタリングに向けた、海底観測網の観測網配置の検討を行う。

- 項目B-2の研究実施方法(参考)

文献調査、グループAおよびB-1で得られた巨大地震の震源モデルや周辺の地下構造、および地震シナリオに基づき、巨大地震に伴う津波シナリオを作成する。ここでは、地震の震源過程の不確実性を考慮した確率論的津波波源モデルを構築する。得られた津波モデルをもとに、津波の伝播・

遡上シミュレーションを実施、津波災害の被害評価を行い、津波災害に関する津波ハザードマップを作成する。構築される津波シナリオは、次のグループ C-1 および C-2 のリスク評価および防災教育プログラムの構築に活用される。研究期間の 1-2 年目で確率論的津波波源モデルおよび沿岸都市・漁村部における遡上・浸水モデルのプロトモデルを構築する。2-5 年目は、グループ A で得られる震源モデルに基づき各モデルを逐次修正する。これらのモデルから巨大地震に伴う沿岸部の都市および漁村部における津波災害に関するシナリオおよび津波ハザードマップの作成を行う。また、将来の津波警報システム開発に向けた津波モニタリングシステムの検討を行う。

(4) 研究題目 C：現地需要に即した地震・津波減災教育プログラムの作成

項目 C-1「脆弱性とリスク評価」（リーダー：畑山満則）

- 項目 C-1 の当初の計画（全体計画）に対する当該年度の成果の達成状況とインパクト

一昨年度までに引き続き、土地台帳に基づく構造物の脆弱性の調査および国勢調査結果に基づく地域の脆弱性評価の実施に向けて、土地台帳に基づく構造物の脆弱性の調査および国勢調査結果に基づく地域の脆弱性評価をシワタネホ市で継続して実施した。同時に、B グループの強震動および津波浸水モデルを考慮しつつ、最適な津波避難経路の選定および津波避難標識の設置に向けた準備として、避難行動評価シミュレーションシステムを開発した。シミュレーションから津波浸水領域に存在する人（観光客を含む）の避難行動についてシナリオ分析を行い、津波避難ビルの有効性を示した。これらを実現するために津波避難標識の活用について検討を行った。

- 項目 C-1 のカウンターパートへの技術移転の状況

建物倒壊を考慮した避難計画立案にむけて、地盤・構造物の脆弱性を把握するため、地盤応答に関する情報収集を現地研究者らと共有した。構造物の脆弱性評価に必要な耐震情報についても、現地研究者らと協力して調査を行った。

- 項目 C-1 の当初計画では想定されていなかった新たな展開

構造物の脆弱性評価では、ストリートビューによる評価を行なった。今後は現地の目視による調査と比較することで、本手法の妥当性を検証することとする。

- 項目 C-1 の研究のねらい（参考）

C-1「脆弱性とリスク評価」では沿岸部の都市部について、地震・津波による構造物および地域経済の脆弱性を評価する。調査対象は主としてゲレロ州沿岸部の以下の都市について実施する（アカプルコ、イスタパ、シワタネホ、エル・パパヨ、バラ・ビエハ）。ここでは、項目 B により提供される地震・津波シナリオと、Instituto Nacional de Estadística y Geografía（INEGI）が提供する建築構造物や地形情報を用いて災害に対するリスクシナリオを構築し、地理情報システム（GIS）を利用したリスクマップの構築を行う。また、日本で開発が進められている津波避難誘導標識を現地向けに改良・開発し導入する。

- 項目 C-1 の研究実施方法（参考）

グループ A および B で得られた地震および津波のシナリオおよびハザードマップに基づき、巨大地震および津波災害に伴うリスク評価およびシナリオを構築する。ここでは、メキシコの土地台帳の構造物の脆弱性および国勢調査に基づく地域社会経済の地震および津波に対する脆弱性を、B により得られたシナリオに基づき評価し、地震・津波災害に関するリスクシナリオおよびマップを構築する。さらに、得られたリスク評価結果を地理情報システム（GIS）に表示・公開するためのシステムの開発も実施する。公開されるリスクシナリオおよびリスクマップは、防災教育プログラムの構築に活用され、沿岸地域の防災政策に活用される。

3 年目においては、メキシコ沿岸部複数の都市における地震・津波災害に対する脆弱性の評価に向けた現地調査を実施する。

2-3 年目においては、1-2 年目の現地調査結果およびグループ B で得られる地震・津波シナリオを考慮し、地震・津波災害に対する構造物および地域社会の脆弱性およびリスク評価を行い、巨大地震・津波発生に伴う、リスクマップのプロトタイプを作成する。得られた結果に基づき、津波避難標識の作成および修正を進める。また、避難誘導標識の作成を開始する。

3-5 年目においては、グループ C-2 で調査される現地ニーズおよび項目 B で改良される地震・津波シナリオに基づき、リスクマップの修正を行う。また、津波避難誘導標識のプロトタイプを完成させ、実施に現地に設置し、避難誘導訓練等を実施し、プロトタイプの検証および改良を行う。特に 5 年目においては、構築されたリスクシナリオおよびマップに基づき、地方行政向けの災害軽減のための行動計画を開発し、その実現に向けた公共政策を提案する。

項目 C-2 「教育プログラムの作成と普及」（リーダー：矢守克也）

- 項目 C-2 の当初の計画（全体計画）に対する当該年度の成果の達成状況とインパクト

当初より進めてきた防災教育プログラムの開発と教育教材のカルチュラル・チューニング、本邦研修によって、パイロットサイトであるシワタネホで防災教育が持続的に行われている。2020 年度は新型コロナウイルス感染症によって公立学校が休校（一部オンライン授業）することによる制約はあったものの、シワタネホ市防災局は学校および地域住民らを対象とした活動を継続している。具体的には、生徒防災委員会の設置、防災マップ作成ワークショップ及びマップ作成で発見したことを生徒らが教員・地域住民・防災局職員に共有する発表会の実施、地域住民を対象にした生徒らによる過去の災害体験インタビュー、自主防災組織 CERT のトレーニングなどである。

また、シワタネホにおいてのべ 1 万人以上を対象に実施してきた地震・津波防災教育プログラムをまとめた参加型防災教育ガイドブック（西語タイトル：Guía de capacitación con participación ciudadana Hacia una capacitación efectiva para la reducción de riesgos de desastres por sismos y tsunamis en zonas costeras）が完成し、1 万部印刷を行った。

2020 年 9 月 17 日には、市民保護・安全省やメキシコ国立防災センター（CENAPRED）が主催したメキシコ防災ウィーク 2020 に関するオンラインセミナー（Semana Nacional de Protección Civil 2020）において C-2 グループの防災教育の成果を発表した。2021 年 3 月 24 日現在、同動画は 1740 回以上再生されている。

2020 年 11 月 5 日には、当プロジェクトが関与することで定例化された国連世界津波の日記念セ

ミナーをメキシコ国立防災センター（CENAPRED）と共催した。詳細は「2. プロジェクト成果の達成状況とインパクト」に示す通りである。

- 項目 C-2 のカウンターパートへの技術移転の状況

技術移転は進捗している。特にパイロットサイトであるシワタネホにおいては、シワタネホ市防災局が自立して多種多様な学校防災教育（津波避難訓練、プロテクション・ジャガー、防災マップ作成、防災委員会設置、など）や自主防災組織 CERT の設置とキャパシティ・ビルディングのためのワークショップを行っている。またシワタネホの複数の学校において地震・津波防災教育への関心が高まっており、学校教員らが防災教育を展開する例も見られ、技術移転とともに防災教育の普及が進んだ。またシワタネホでの防災教育の成果をまとめた上述のガイドブックは 1 万部印刷されており、メキシコ太平洋沿岸部の自治体に配布予定であることから、技術移転はさらに進むと考えられる。

一方、課題もある。ガイドブックが配布されるだけでは、防災教育手法の定着が十分に見込めない。同ガイドブックを用いたワークショップ開催や、同ガイドブックに紹介されている防災教育の実践報告を共有する場の設定を通して、着実な成果の普及と定着を最終年度に進める。

- 項目 C-2 の当初計画では想定されていなかった新たな展開

本年度はメキシコにおいて COVID-19 感染症の影響が極めて大きかったことから、項目 C-2 では広義の防災教育活動として、感染症等の非常事態における子どもたちの心のケアに焦点を当てた啓発・教育活動を新たに展開した。具体的な取り組みとして、JICA メキシコ事務所や複数のメキシコ側カウンターパートと連携の上、2020 年 7 月 6 日（メキシコ時間）に「心のケアセミナー」をオンライン形式で実施した。本セミナーでは日本人の外部専門家が、メキシコほかラテンアメリカ各国の教育・防災関係者に対して講演を行い、6500 人以上の参加を記録する大規模なものとなった。セミナーの反響を受けて、さらに災害時の対応や心のケアのポイントをわかりやすく整理したマンガ教材を製作する活動も展開し、2021 年 3 月時点でおおむね完成、翌年度に普及・活用を進めていく予定である。

上記に加えて、2020 年末に発生したメキシコ南東部の大雨による人的被害を受けて、項目 C-2 では当初の計画として予定されていなかったが、JICA・UNAM・AMEXCID 関係者と調整の上、テントやポリタンク等の人道支援物資の提供を通して現地防災当局の対応強化を支援した。

- 項目 C-2 の研究のねらい（参考）

C-2「地震・津波災害教育プログラムの作成と普及」では、項目 B で得られた地震・津波ハザードマップを基に、津波避難マップの作成や減災意識向上のための教育プログラムの開発を行う。プログラムの開発にあたっては、既存のプログラムやツールを無反省に現地に適用するのではなく、現時点における減災意識の現状を把握し、現地の社会・文化的特性を十分に把握し、それらを踏まえた〈カルチュラル・チューニング〉を施してから現地に適用することが重要である。このため、まず、メキシコ国太平洋沿岸部の津波被害や減災意識・災害文化の実態等に関する聞き取り調査を行い、調査結果のアーカイブ化を進める。さらに、災害心理学・防災教育学の研究成果に基づきこ

これらのデータを分析し、その上で、項目 B で得られた地震・津波シナリオを考慮しつつ、地域住民が適切な避難行動を主体的にとることができるようなプログラムを開発する。開発にあたっては、日本や中南米諸国ですでに実効性が確認されている手法・ツール（ゲーミング手法など）をベースとして活用しつつ、それらに〈カルチュラル・チューニング〉を加えた上で、津波減災教育プログラムをスペイン語および英語で策定する。

● 項目 C-2 の研究実施方法（参考）

グループ A および B で得られた地震および津波のシナリオやグループ C-1 により得られるリスクマップに基づき、巨大地震および津波による被害を軽減するための防災教育プログラム、避難アプリを開発・構築する。メキシコ国内、特に沿岸部住民の現時点における減災意識の現状を把握し、現地の過去の津波災害情報と合わせて調査結果のアーカイブ化を行う。現地の社会・文化的特性を十分に調査し、カルチュラル・チューニングを施した後、開発されたプログラムを適用すること。さらに、これまでに日本等で得られた災害心理学・防災教育学の研究成果に基づきのデータを分析し、その上で、グループ B で得られた地震・津波シナリオやグループ C-1 のリスクシナリオを考慮しつつ、地域住民が適切な避難行動を主体的にとることができるような教育手法および避難誘導標識を開発する。開発される教育手法および避難誘導標識は、現地自治体に導入・設置され沿岸地域の住民の発災後の安全な避難行動に活用される。

1-2 年目においては、現地の地震・津波災害に対する意識調査を沿岸部やメキシコシティ等で実施する。沿岸部では、過去の津波災害に関する資料の収集および聞き取り調査も実施する（10 名以上のインフォーマント）。また、既存プログラムを現地で試行し、〈カルチュラル・チューニング〉へ向けたデータを収集する（少なくとも 1 回以上の試行を実施）。

3-4 年目においては、1-2 年目の調査結果に基づき現地ニーズに則した地震・津波減災教育プログラムや避難アプリ（プロトタイプ）を開発する（対象年齢等に応じて、2-3 種類のプログラムを開発）。具体的には、ゲーミング手法、および、津波避難マップや避難誘導標識のプロトタイプを活用した地震・津波減災教育プログラム（プロトタイプ）を作成し、項目 B で得られる地震・津波シナリオを基に更新しつつ、地域住民・学校等に配布・実施し有効性について検証するための評価情報を収集する（少なくとも 100 人をこえる参加者からの評価情報を得る）。

4-5 年目においては、開発した減災教育プログラムや避難アプリを沿岸部の都市部および漁村部で本格的に実施して普及を図る。プログラムや各種ツールの〈カルチュラル・チューニング〉を進めながら、地域コミュニティや学校等で教育プログラムを実践し、プログラム全体の評価および検証を進める（少なくとも 5 箇所以上のフィールドで検証作業を実施）。

特に 5 年目においては、グループ B-2 で検討される津波モニタリングシステムと開発される教育プログラムの連携も考慮して、将来の巨大地震・津波に対する地域コミュニティの準備を推進する。

II. 今後のプロジェクトの進め方、および成果達成の見通し（公開）

前年度までの活動に引き続き、海底・陸上地震・測地観測網の記録を用いた地震活動や地下構造の調査を進め、ゲレロ州沖合のプレート間固着状況を明らかにする。得られたゲレロ沖合のプレート間固着状況や観測・調査された地震の発生様式の理解に基づき同地域の巨大地震の震源モデルを構築する。得られる震源モデルと地盤モデルを用いて、ゲレロ州における巨大地震に伴う強震動予測地図や津波浸水想定図の作成を進め、地震・津波シナリオおよびハザードマップを完成する。また、強震動予測地図や津波浸水想定図を反映したリスクマップを地理情報システム（GIS）上で構築し、津波避難誘導標識に応用する。さらに津波避難標識を有効活用した津波避難方法を確立し、現地の避難訓練に実装する。

プロジェクト全体の成果を総括するワークショップ（一般向けセミナーおよび成果報告会）を2022年3月にメキシコにて実施する。

A、BおよびCグループについては引き続き、観測データ収集・解析、地震・津波モデルの構築および成果の社会実測への実現に向けて当初の計画に沿って進める。

A-1については、前年度実施されなかったゲレロ沖合の海底観測機器の回収および再設置作業を実施する。また、昨年度までと同様にGPS/A地殻変動観測も実施する。マルチビームエコー記録の解析を2019年度取得の記録も含め継続して実施し、すでに公開されている広域の海底地形図と併合し領域の海底地形図を完成させる。これまでに回収された海底圧力および地震計記録の解析をさらに進める。特に、海底圧力記録を用いた研究では、記録中の海洋ノイズの季節性成分に着目した解析を進め、スロー地震に伴う海底地殻変動を明らかにする。海底地震計記録を用いた研究では、特に低周波微動の解析を進め、震源メカニズムと震源パラメータの推定を行う。昨年度に引き続き、ゲレロ州沖合の地震活動度および地震波速度構造を明らかにする。

A-2については、引き続き地上臨時観測点のデータ収集及び整頓を続けるとともに、A-1が回収する海底地震計の記録とともに統合データベースを作成する。それらを用いた海溝軸近傍のテクトニック微動の検出、および応力変動に伴う微動誘発現象の分析についての論文をまとめる。新たな陸上及び海底の地震観測データを用いて、観測期間における最終的な地震と微動のカタログを完成させる。また検出した微動の特徴、特に潮汐応答性や超低周波数成分の有無などについての分析をさらに進める。新たなGPS観測データと従来からのGPS観測データを統合して、長期的及び短期的SSEの解析を進める。

B-1では、温度構造モデリングでは、前年度の対象領域において、観測された地殻熱流量データとキューリー点深度分布のデータを同時に説明する温度構造モデルを構築し、このモデルに基づいて、脱水分布を求め、プレート境界付近で発生する通常地震やゆっくり地震との関係を明らかにすることを目指す。強震動モデリングでは、不均質震源モデルのプロトタイプを作成し、日本のデータでその不均質度の強さなどの確認を行う。また、強震動の同定手法と表面波抽出法を用いて、表面波の寄与を考慮した地盤構造同定を、メキシコ側メンバーを中心として実施する。

B-2では、確率津波モデルを拡張し、ランダムフェーズモデルとロジックツリーモデルの両方で確率評価を進め、沿岸部の津波ハザード評価について一定の結論を得る。特に、津波伝播および浸水計算について、異なる2種類の手法を用いて津波計算を実施し、沿岸津波波高および浸水範囲推定の不確実性について検討し、沿岸部における遡上・浸水計算により津波ハザード評価手法について結論を得る。シワタネホおよびアカプルコを対象とした確率津波ハザードマップの整備を行う。津波警報シ

システム開発に向けた津波モニタリングシステムの理想的配置について、確率津波モデルの結果等をふまえて検討をさらに進め、現地を対象としたシステムの提案を行う。

C-1 では、開発した避難行動評価シミュレーションを用いて、シワタネホの津波浸水領域における避難行動について自治体と連携したシナリオ分析を進め、最適な避難経路を自治体に提案する。昨年度の成果から、地元住民による率先避難と津波避難ビル指定が効果的であることが分かっているが、これらを実現するためには率先避難者の安全確保が問題となる。そこで C-2 グループと共同で、開発を進めてきた津波避難標識を活用した防災訓練を行い、その実行可能性についての評価を行う。また、津波避難の重要性を観光客や付近住民に周知するため、避難シミュレーションの結果の展示用システムの開発を行う。

C-2 では、過去の地震・津波体験の聞き取り及びアーカイブ化、最先端の津波モデリング手法に基づいた津波避難訓練ワークショップ実施手法の確立、ゲレロ州沿岸部の文化に即したカルチュラル・チューニング、地震・津波防災教育プログラムの開発、自主防災組織の設置手法の確立、世界津波の日記念セミナーの定例化など、成果が見られている。また、パイロットサイトであるシワタネホにおいては、防災局職員や学校教員らが継続した防災教育・地域防災活動に自立的に取り組んでおり、成果定着が見られている。最終年度は、これら成果をゲレロ州沿岸部の他都市にも展開するためのワークショップ開催と、A・B・C-1 グループによる新たな地震・津波研究の成果に基づいた防災教育プログラムのアップデートを予定している。

III. 国際共同研究実施上の課題とそれを克服するための工夫、教訓など（公開）

(1) プロジェクト全体

これまでに引き続き、SATREPS 枠を用いた文部科学省国費留学生に対して、OJT（On-the-Job Training）を実施した。特に 11 月に実施された自治体向けの防災教育セミナーや JCC にも同行させて、主としてプロジェクトのマネージメントについて研修を実施した。また、これらの会議には日本側からも若手研究者 4 名（ポスドク 3 名、博士課程大学院生 1 名）も参加したため、次世代プロジェクトリーダーの育成に資する活動となった。

コロナウィルス感染拡大の影響を受けて、令和 2 年度の渡航予定は全て中止または延期となった。一方で zoom などを用いたオンライン会議が一般的となったため、結果としてプロジェクト内の会議を従来よりも密に行うことができた。特に年度末にかけてはサイエンスウェビナーを開催し、過去 5 年間の活動内容の整理および延長期間となる令和 3 年度の活動内容および重点研究箇所について整理を進めることとした。

(2) 研究題目 A：地震・測地観測に基づくプレート間固着状況の解明

新型コロナウイルス感染症による渡航制限により、日本からの専門家の現地調査やメキシコから研究者を招聘する研究交流や国内研修が中止または延期となった。一方、zoom を用いたオンラインのミーティングを密に開催することで、現地との研究交流及び議論の場を多く設けることができたため、研究題目 A 全体での議論は 1-4 年目よりも活発に進めることができた。

(3) 研究題目 B：地震・津波モデリングに基づく津波・強震動シナリオの構築

【令和 2 年度実施報告書】【210531】

令和元年度に、地盤モデル推定のための技術移転を開始したが、令和2年度は新型コロナの影響で進捗できていないため、令和3年度に進められるように調整している。ドローン等の日本側の機材の貸し出し運搬、現地観測の実施が必要だが、コロナ禍における渡航制限で実施できていない。

コロナウィルス感染拡大の影響を受けて、令和2年度の渡航予定は全て中止または延期となった。B-2グループでは、本年度は毎月のオンライン会議を実施し、共同研究および技術移転を進めた。コロナウィルス感染拡大以前よりオンライン会議を実施していたため、大きな問題なく研究が継続できた。

(4) 研究題目 C:現地需要に即した地震・津波減災教育プログラムの作成

新型コロナウィルス感染症による渡航制限と、プロジェクトサイトでの学校休校や感染症まん延によって社会実装に関連する活動は制限された。しかし、プロジェクト5年目であったことからプロジェクト関係者・現地カウンターパートとの信頼関係は醸成されており、オンライン会議やビデオ録画による防災授業等を用いてプロジェクトを推進した。

IV. 社会実装（研究成果の社会還元）（公開）

(1) 成果展開事例

- **市民防災週間セミナー（2020年9月17日：Web会議）への参加**
CENAPRED が主催したセミナーで、本プロジェクトの防災教育の取り組み等についてメキシコ側関係者に紹介され、市民および防災担当者らと本プロジェクトの成果が共有された。
- **プエブラ州防災セミナー（2020年9月21日：Web会議）への参加**
緊急地震速報の日本での運用状況など防災に関する最新の知見をプエブラ州防災当局と共有した。
- **メキシコ防災ウィーク 2020（2020年9月24日：YouTubeによる配信）への参加**
CENAPRED が主催した防災イベントに参加し、中野元太（京都大学）が”災害被害軽減のための地域・学校・行政が連携した共同実践”と題した発表を通じて、市民および防災担当者らと本プロジェクトの成果が共有された。
- **世界津波の日記念セミナー（2020年11月5日：YouTubeによる配信）の共催**
CENAPRED と昨年度に引き続き世界津波の日イベントを開催した。本プロジェクトから中野元太（京都大学）が”メキシコと日本における防災教育の異同”と題した発表を通じて、市民および防災担当者らと本プロジェクトの成果が共有された。

(2) 社会実装に向けた取り組み

- シワタネホ市防災局が自立して多種多様な学校防災教育（津波避難訓練、プロテクション・ジャガー、防災マップ作成、防災委員会設置、など）や自主防災組織 CERT の設置とキャパシティ・ビルディングのためのワークショップが実施された。
- シワタネホの複数の学校において地震・津波防災教育への関心の高まりにより、学校教員らが防災教育を展開された、技術移転とともに防災教育の普及の取り組みが進められている

V. 日本のプレゼンスの向上 (公開)

- RAUGM2020 (メキシコ地球惑星科学連合 2020 年大会) にて研究活動、特に船舶を用いた研究活動の紹介を行った。
- ゲレロ沖合における地震観測の取り組みについて、読売テレビによる取材を受けて関西圏で放送された。

VI. 成果発表等【研究開始～現在の全期間】 (公開)

VII. 投入実績【研究開始～現在の全期間】 (非公開)

VIII. その他 (非公開)

以上

VI. 成果発表等

(1) 論文発表等【研究開始～現在の全期間】(公開)

①原着論文(相手国側研究チームとの共著)

年度	著者名,論文名,掲載誌名,出版年,巻数,号数,はじめ～おわりのページ	DOIコード	国内誌/ 国際誌の別	発表済 /in press /acceptedの別	特記事項(分野トップレベル雑誌への掲載など、 特筆すべき論文の場合、ここに明記ください。)
2016	Maury, J., S. Ide, V. M. Cruz-Atienza, V. Kostoglodov, G. González-Molina and X. Pérez-Campos. Comparative study of non-volcanic tremor locations: characterization of slow earthquakes in Guerrero, Mexico. Journal of Geophysical Research, 121.	10.1002/2016JB013027	国際誌	発表済	
2017	Ji, Y., S. Yoshioka, V. C. Manea and Marina Manea, Seismogenesis of dual subduction beneath Kanto, central Japan controlled by fluid release, Scientific Reports, 2017, 7.	10.1038/s41598-017-16818-z	国際誌	発表済	
2017	Adriano, B., Fujii, Y., Koshimura, S., Mas, E., Ruiz-Angulo, A. and Estrada, M., 2018. Tsunami source inversion using tide gauge and DART tsunami waveforms of the 2017 Mw8. 2 Mexico earthquake. Pure and Applied Geophysics, 175(1), pp.35-48.	10.3389/fbuil.2017.00034	国際誌	発表済	
2017	Adriano, B., Fujii, Y., Koshimura, S., Mas, E., Ruiz-Angulo, A. and Estrada, M., 2018. Tsunami source inversion using tide gauge and DART tsunami waveforms of the 2017 Mw8. 2 Mexico earthquake. Pure and Applied Geophysics, 175(1), pp.35-48.	10.1007/s00024-017-1760-2	国際誌	発表済	
2018	Maury, J., Ide, S., Cruz-Atienza, V. M., & Kostoglodov, V. (2018). Spatiotemporal variations in slow earthquakes along the Mexican subduction zone. Journal of Geophysical Research: Solid Earth, 123(2), 1559-1575.	10.1002/2017JB014690	国際誌	発表済	
2018	Cruz-Atienza, V. M., Ito, Y., Kostoglodov, V., Hjörleifsdóttir, V., Iglesias, A., Tago, J., ... & Nishimura, T. (2018). A Seismogeodetic Amphibious Network in the Guerrero Seismic Gap, Mexico. Seismological Research Letters.	10.1785/0220170173	国際誌	発表済	
2018	Ji, Y., S. Yoshioka, V. C. Manea, M. Manea and N. Suenaga, Subduction thermal structure, metamorphism and seismicity beneath northcentral Chile, Journal of Geodynamics, 2018	10.1016/j.jog.2018.09.004	国際誌	in press	
2018	Diego Melgar, Angel Ruiz-Angulo, Emmanuel Soliman Garcia, Marina Manea, Vlad C. Manea, Xiaohua Xu, M. Teresa Ramirez-Herrera, Jorge Zavala-Hidalgo, Jianghui Geng, Nestor Corona, Xyoli Pérez-Campos, Enrique Cabral-Cano & Leonardo Ramirez-Guzmán (2018), Deep embrittlement and complete rupture of the lithosphere during the Mw8.2 Tehuantepec earthquake, Nature Geoscience, 11, 955-960	10.1038/s41561-018-0229-y	国際誌	発表済	トップ紙への掲載: Nature Geoscience、プレスリリース発行(京都大学)
2018	Nakano, G., Ramirez-Herrera, M., Corona, N., Effects of decontextualized tsunami disaster education: A case study of schools in Acapulco, Mexico., Journal of Natural Disaster Science vol.39 No.2	10.2328/jnds.39.19	国内誌	発表済	
2019	Nobuaki Suenaga, Shoichi Yoshioka, Takumi Matsumoto, Vlad C. Manea, Marina Manea and Yingfeng Ji, "Two-Dimensional Thermal Modeling of the Philippine Sea Plate Subduction in Central Japan: Implications for Gap of Low-Frequency Earthquakes and Tectonic Tremors", Journal of Geophysical Research: Solid Earth, 2019, 06, 124-pp.6848-6865	10.1029/2018JB017068	国際誌	発表済	
2019	Yingfeng Ji, Shoichi Yoshioka, Vlad Constantin Manea, Marina Manea and Nobuaki Suenaga, "Subduction thermal structure, metamorphism and seismicity beneath northcentral Chile", Journal of Geodynamics, 2019, 09, 129-pp.299-312	10.1016/j.jog.2018.09.004	国際誌	発表済	
2020	宮下 卓也, GOMEZ-RAMOS Octavio, 森 信人 (2020) 適合格子細分化法を用いた南海トラフ沿いの巨大地震津波の数値計算. 土木学会論文集B2(海岸工学), 2020, 76 巻, 2 号, p. 1289-1294		国内誌	発表済	
2020	Černý, J., M.T. Ramirez-Herrera, E.S. Garcia, and Y. Ito (2020), Seafloor morphology along the active margin in Guerrero, Mexico: Probable earthquake implications, Journal of South American Earth Sciences, 102.	10.1016/j.jsames.2020.102671	国際誌	発表済	
2020	Plata-Martínez R., S. Ide, M. Shinohara, E. Garcia, N. Mizuno, L. A. Dominguez, T. Taira, Y. Yamashita, A. Toh, T. Yamada, J. Real, A. Husker, V. M. Cruz-Atienza and Y. Ito. (2020). Shallow slow earthquakes to decipher future catastrophic earthquakes in the Guerrero gap.	https://doi.org/10.21203/rs.3.rs-102838/v1		発表済	
2020	Miyazawa, M., Santoyo, M.Á. Tectonic tremors in the Northern Mexican subduction zone remotely triggered by the 2017 Mw8.2 Tehuantepec earthquake. Earth Planets Space 73, 6 (2021).	https://doi.org/10.1186/s40623-020-01331-x	国際誌	発表済	
2020	Yoshiyuki Tatsumi, Nobuaki Suenaga, Shoichi Yoshioka, Katsuya Kaneko and Takumi Matsumoto, Contrasting volcano spacing along SW Japan arc caused by difference in age of subducting lithosphere, Scientific Reports, 2020, 10, 15005	10.1038/s41598-020-72173-6	国際誌	発表済	分野トップレベル雑誌への掲載
2020	Yingfeng Ji and Shoichi Yoshioka, Depth variation of seismic moment and recurrence interval in Japan, Geoscience Letters, 2021, 8, 4	10.1186/s40562-020-00173-5	国際誌	発表済	
2020	Yingfeng Ji, Ruyu Yan, Deng Zeng, Chaodi Xie, Weiling Zhu, Rui Qu and Shoichi Yoshioka, Slab Dehydration in Sumatra: Implications for Fast and Slow Earthquakes and Arc Magmatism, Geophysical Research Letters, 2021, 48, 2020GL090576	10.1029/2020GL090576	国際誌	発表済	
2021	Cruz-Atienza, V.M., J. Tago, C. Villafuerte, M. Wei, R. Garza-Girón, L. A. Dominguez, V. Kostoglodov, T. Nishimura, S. I. Franco, J. Real, M. A. Santoyo, Y. Ito, and E. Kazachkina (2021). Short-term interaction between silent and devastating earthquakes in Mexico, Nature Communications, 12	10.1038/s41467-021-22326-6	国際誌	発表済	Nature communicationsへの掲載

論文数 19 件
うち国内誌 2 件
うち国際誌 16 件

公開すべきでない論文 0件

②原著論文(上記①以外)

年度	著者名,論文名,掲載誌名,出版年,巻数,号数,はじめ-おわりのページ	DOIコード	国内誌/ 国際誌の別	発表済 /in press /acceptedの別	特記事項(分野トップレベル雑誌への掲載など、 特筆すべき論文の場合、ここに明記ください。)
2015	Ji, Y., S. Yoshioka, and T. Matsumoto, Three-dimensional numerical modeling of temperature and mantle flow fields associated with subduction of the Philippine Sea plate, southwest Japan, J. Geophys. Res. Solid Earth, 2016, 121, 4458-4482.	10.1002/2016JB012912	国際誌	発表済	
2016	Frank, W., N. Shapiro, A. Husker, V. Kostoglodov, A. Gusev, and M. Campillo, The evolving interaction of low-frequency earthquakes during transient slip, Sci Adv, 2016, 2(4), e1501616-e1501616.	10.1126/sciadv.1501616	国際誌	発表済	
2016	Porritt, R. W. and S. Yoshioka, Slab pileup in the mantle transition zone and the 30 May 2015 Chichi-jima earthquake, Geophys. Res. Lett., 2016, 43, 4905-4912.	10.1002/2016GL068168	国際誌	発表済	
2016	Husker, A. L., H. Houston, and M. Campillo, Understanding slow slip and tremor on plate boundaries, Eos, 2016, 97.	10.1029/2016EO054291	国際誌	発表済	
2016	伊藤喜宏, 深部低周波微動/低周波地震/超低周波地震ってなんだ?, 2016, なみふる, 106, 2-3.		国内誌	発表済	
2016	Carlos Villafuerte Urbina, Postgraduate School of Earth Sciences, UNAM. Title: "Evolución de la Presión de Poro Asociada a Sismos Silenciosos: Implicaciones en la Generación de Tremores Tectónicos en Guerrero, México", August 5, 2016.			発表済	master thesis
2016	Castro, R. R., X. Pérez-Campos, R. Zúñiga, L. Ramírez-Guzmán, J. Aguirre, A. Husker, A. Cuéllar, T. Sánchez, A Review on Advances in Seismology in Mexico After 30 Years from the 1985 Earthquake, J. of South American Earth Sciences, 2016, 70, 49-54.	10.1016/j.jsames.2016.05.004	国際誌	発表済	
2016	Suenaga, N., S. Yoshioka, and T. Matsumoto, Relationships among temperature, dehydration of the subducting Philippine Sea plate, and the occurrence of a megathrust earthquake, low-frequency earthquakes, and a slow slip event in the Tokai district, central Japan, Physics of the Earth and Planetary Interiors, 2016, 260, 44-52.	10.1016/j.pepi.2016.09.004	国際誌	発表済	
2016	Cruz-Atienza V. M., Carlos Villafuerte, Harsha Bhat. Tectonic Tremor Migration Induced By Pore Pressure Solitons In Guerrero, Mexico. Mexican Geophysical Union (UGM), Puerto Vallarta, México, Geos, Vol. 36, 2016.		国際誌	発表済	
2016	Manea, V. C., M. Manea, L. Ferrari, T. Orozco-Esquivel, R. W. Valenzuela, A. Husker, V. Kostoglodov, A review of the geodynamic evolution of flat slab subduction in Mexico, Peru, and Chile, Tectonophysics, 2017, 695, 27-52.	10.1016/j.tecto.2016.11.037	国際誌	発表済	
2016	Kawamoto, S., Y. Hiyama, Y. Ohta, and T. Nishimura, First result from the GEONET real-time analysis system (REGARD): the case of the 2016 Kumamoto earthquakes, 2016, Earth Planets Space, 68(1), 190	10.1186/s40623-016-0564-4	国際誌	発表済	
2016	Tomiczek, T., A. Prasetyo, N. Mori, T. Yasuda and A. Kennedy (2016) Physical modelling of tsunami onshore propagation, peak pressures, and shielding effects in an urban building array, Coastal Engineering, Elsevier, Vol.117, pp.97-112.				
2016	Goda, K., T. Yasuda, N. Mori and T. Maruyama (2016) New scaling relationships of earthquake source parameters for stochastic tsunami simulation, Coastal Engineering Journal, World Scientific, Vol.58, 1650010, 40p.				
2017	Manea, V. C., Manea, Ferrari, Orozco, R. W. Valenzuela, Husker, and Kostoglodov, A review of the geodynamic evolution of flat slab subduction in Mexico, Peru, and Chile, Tectonophysics, 2017, 695, 27-52.	10.1016/j.tecto.2016.11.037	国際誌	発表済	
2016	Kawamoto, S., Y. Ohta, Y. Hiyama, M. Todoriki, T. Nishimura, T. Furuya, Y. Sato, T. Yahagi, and K. Miyagawa, REGARD: A new GNSS-based real-time finite fault modeling system for GEONET, J. Geophys. Res. Solid Earth, 2017, 122.	10.1002/2016JB013485	国際誌	発表済	
2017	Mikumo, T., T. Shibutani, M. Iwakuni and N. Arai; Low-frequency atmospheric gravity waves from vertical tectonic deformation during two recent Chilean megathrust events: the 2010 Maule(Mw8.8), and 2014 Iquique (Mw8.2) earthquakes, Apri 04I, 2017 The Open Atmospheric Science Journal		国際誌	発表済	
2017	Castellanos, J., X. Pérez-Campos, R. Valenzuela, A. Husker, and L. Ferrari, Crust and upper-mantle seismic anisotropy variations from the coast to inland in central and Southern Mexico, Geophysical Journal International, 2017, 210, 360-374.	10.1093/gji/ggx174	国際誌	発表済	
2017	Nakata, R., H. Hino, T. Kuwatani, S. Yoshioka, M. Okada and T. Hori, Discontinuous boundaries of slow slip events beneath the Bungo Channel, southwest Japan, Scientific Reports, 2017, 7.	10.1038/s41598-017-06185-0	国際誌	発表済	
2017	Mori, N., P.M. Mai, K. Goda and T. Yasuda (2017) Tsunami inundation variability from stochastic rupture scenarios: Application to multiple inversions of the 2011 Tohoku, Japan earthquake, Coastal Engineering, Elsevier, Vol.127, pp.88-105.	10.1016/j.coastaleng.2017.06.013	国際誌	発表済	
2017	Ito, Y., M. J. Ikari, K. Ujiie, and A. J. Kopf (2017), Coseismic slip propagation on the Tohoku plate boundary fault facilitated by slip-dependent weakening during slow fault slip, Geophys. Res. Lett., 44, 8749-8756	doi:10.1002/2017GL074307	国際誌	発表済	
2017	Ji, Y., S. Yoshioka and Y. A. Banay, Thermal state, slab Metamorphism, and interface seismicity in the Cascadia subduction zone based on 3-D modeling, Geophysical Research Letters, 2017, 44, 9242-9252.	10.1002/2017GL074826	国際誌	発表済	

2017	Porritt, R. W. and S. Yoshioka, Evidence of Dynamic crustal deformation in Tohoku, Japan, from time-varying receiver functions, <i>Tectonics</i> , 2017, 36, 1934-1946.	10.1002/2016TC004413	国際誌	発表済	
2017	Katakami, S., Y. Yamashita, H. Yakihara, H. Shimizu, Y. Ito, and K. Ohta (2017), Tidal Response in Shallow tectonic tremors, <i>Geophys. Res. Lett.</i> , 44, 9699-9706.	doi:10.1002/2017GL074060	国際誌	発表済	
2017	Husker, A., L. Ferrari, C. Arango-Galván, F. Corbo-Camargo, and J. Arzate-Flores, A geologic recipe for transient slip within the seismogenic zone: Insight from the Guerrero seismic gap, Mexico, <i>Geology</i> , 2017.	10.1130/G39202.1	国際誌	発表済	
2017	Suenaga, N., S. Yoshioka, T. Matsumoto and Y. Ji, Two-dimensional thermal modeling associated with subduction of the Philippine Sea plate in southern Kyushu, Japan, <i>Tectonophysics</i> , 2018, 723, 288-296.	10.1016/j.tecto.2017.12.017	国際誌	発表済	
2017	伊藤喜宏(2018), 講座「南海トラフ巨大地震・津波発生の真実にせまる～強靱な社会の構築に向けて～」5. 南海トラフのスロー地震と断層活動, <i>地盤工学会誌</i> , 66(1), 54-60		国内誌	発表済	
2017	María Teresa Ramírez-Herrera, Krzysztof Gaidzik, Steven Forman, Vladimir Kostoglodov, Roland Bürgmann, Christopher W. Johnson; Relating the long-term and short-term vertical deformation across a transect of the forearc in the central Mexican subduction zone. <i>Geosphere</i> ; 14 (2): 419-439	10.1130/GES01446.1	国際誌	発表済	
2017	Plata Martínez, Raymundo Omar. Energía irradiada de réplicas en la zona de subducción de Guerrero, México. Posgrado en Ciencias de la Tierra, UNAM.				master thesis (Date of obtaining degree: 3/22/2018)
	Mori, N., A. Muhammad, K. Goda, T. Yasuda and A. Ruiz-Angulo (2017) Probabilistic tsunami hazard analysis of the Pacific Coast of Mexico: Case study based on the 1995 Colima Earthquake Tsunami, <i>Frontiers in Built Environment, Mega Quakes: Cascading Earthquake Hazards and Compounding Risks</i> , 3:34, doi: 10.3389/fbuil.2017.00034	10.3389/fbuil.2017.00034	国際誌	発表済	
2017	Tomiczek, T., A. Prasetyo, N. Mori, T. Yasuda and A. Kennedy (2017) Effects of a macro-roughness element on tsunami wave amplification, pressures, and loads: Physical model and comparison to Japanese and US design equations. <i>Coastal Engineering Journal</i> , World Scientific, Vol.50, 1750004, 25p.				
2017	Mori, N., P.M. Mai, K. Goda and T. Yasuda (2017) Tsunami inundation variability from stochastic rupture scenarios: Application to multiple inversions of the 2011 Tohoku, Japan earthquake, <i>Coastal Engineering</i> , Elsevier, Vol.127, pp.88-105.				
2017	Suenaga, N., Y. Ji, S. Yoshioka and D. Feng, Subduction thermal regime, slab dehydration, and seismicity distribution beneath Hikurangi based on 3-D simulations, <i>Journal of Geophysical Research: Solid Earth</i> , 2018, 123, 4, 3080-3097	10.1002/2017JB015382	国際誌	発表済	
2018	Cruz-Atienza VM, Villafuerte C, Bhat HS. Rapid tremor migration and pore-pressure waves in subduction zones. <i>Nature Communications</i> . 2018;9:2900.	10.1038/s41467-018-05150-3	国際誌	発表済	
2018	Pringle, W.J., N. Yoneyama and N. Mori (2018) Multiscale coupled three-dimensional model analysis of the tsunami flow characteristics around the Kamaishi bay offshore breakwater and comparisons to a shallow water model, <i>Coastal Engineering Journal</i> , Taylor & Francis	10.1080/21664250.2018.1484270	国際誌	発表済	
2018	Ide, S., & Maury, J. (2018). Seismic Moment, Seismic Energy, and Source Duration of Slow Earthquakes: Application of Brownian slow earthquake model to three major subduction zones. <i>Geophysical Research Letters</i> , 45(7), 3059-3067.	10.1002/2018GL077461	国際誌	発表済	
2018	Katakami, S., Y. Ito, K. Ohta, R. Hino, S. Suzuki, and M. Shinohara (2018). Spatiotemporal Variation of Tectonic Tremor Activity Before the Tohoku-Oki Earthquake, <i>J. Geophys. Res.</i> , 123, 9676-9688.	10.1029/2018JB016651	国際誌	発表済	
2018	Uemura, M., Y. Ito, K. Ohta, R. Hino, M. Shinohara(2018), Spatio-temporal changes in the seismic velocity induced by the 2011 Tohoku-Oki earthquake and slow slip event revealed from seismic interferometry, using Ocean Bottom Seismometer's records, <i>Progress in Earth and Planetary Science</i> , 5(87).	10.1186/s40645-018-0240-3	国際誌	発表済	
2018	Diego Melgar, Angel Ruiz-Angulo, Emmanuel Soliman Garcia, Marina Manea, Vlad. C. Manea, Xiaohua Xu, M. Teresa Ramirez-Herrera, Jorge Zavala-Hidalgo, Jianghui Geng, Nestor Corona, Xyoli Pérez-Campos, Enrique Cabral-Cano & Leonardo Ramirez-Guzmán (2018). Deep embrittlement and complete rupture of the lithosphere during the Mw8.2 Tehuantepec earthquake, <i>Nature Geoscience</i> , 11, 955-960	10.1038/s41561-018-0229-y	国際誌	発表済	トップ紙への掲載: Nature Geoscience、プレスリリース発行(京都大学)
2018	宮下卓也, 森 信人 (2018) Random Phase と Logic Tree を用いた確率論的な津波波高評価の比較, <i>土木学会論文集 B2 (海岸工学)</i> , 74(2), 1,427-1,432		国内誌	発表済	
2018	福井信気, 森 信人 (2018) 都市地形アップスケーリングによる市街地粗度パラメタリゼーションを用いた津波遡上計算の検証—2011年東北地震津波・女川町—, <i>土木学会論文集 B2 (海岸工学)</i> , 74(2), 1,187-1,192.		国内誌	発表済	
2018	Mirwald, A., V. M. Cruz-Atienza, J. Díaz-Mojica, A. Iglesias, S. K. Singh, C. Villafuerte and J. Tago The September 19, 2017 (Mw7.1), intermediate-depth Mexican earthquake: a slow and energetically inefficient deadly shock. <i>Geophysical Research Letters</i> , 46.	10.1029/2018GL080904	国際誌	発表済	
2019	Muramoto, T., Y. Ito, D. Inazu, L. M. Wallace, R. Hino, S. Suzuki, S. C. Webb, S. Henrys(2018), Seafloor crustal deformation on ocean bottom pressure records with non-tidal variability corrections: application to Hikurangi margin, New Zealand, <i>Geophys. Res. Lett.</i> , 46, 303-310.	10.1029/2018GL080830	国際誌	発表済	
2019	Prasetyo, A., T. Yasuda, T. Miyashita, N. Mori (2019) Physical modeling and numerical analysis of tsunami inundation in a coastal city, <i>Frontiers in Built Environment</i> , Vol.5, doi:10.3389/fbuil.2019.00046, 19 p. doi: 10.3389/fbuil.2019.00046	10.3389/fbuil.2019.00046	国際誌	発表済	

2018	中野元太・矢守克也。(2018)学校教員の主体性形成を目指した防災教育—メキシコ・シワタネホでのアクションリサーチ—, 災害情報, Vol. 16(2), pp. 235-244.		国内誌	発表済	
2019	Ohta, K., Y. Ito, R. Hino, S. Ohyanagi, T. Matsuzawa, H. Shiobara, M. Shinohara (2019), Tremor and inferred slow slip associated with afterslip of the 2011 Tohoku earthquake, Geophys. Res. Lett., 46, 4591-4598	10.1029/2019GL0824268	国際誌	発表済	
2019	Muramoto, T., Y. Ito, D. Inazu, L. M. Wallace, R. Hino, S. Suzuki, S. C. Webb, S. Henrys(2019), Seafloor crustal deformation on ocean bottom pressure records with non-tidal variability corrections: application to Hikurangi margin, New Zealand, Geophys. Res. Lett., 46, 303-310	10.1029/2018GL080830	国際誌	発表済	
2019	Mirwald, A., V. M. Cruz-Atienza, J. Díaz-Mojica, A. Iglesias, S. K. Singh, C. Villafuerte and J. Tago. The September 19, 2017 (Mw7.1), intermediate-depth Mexican earthquake: a slow and energetically inefficient deadly shock. Geophysical Research Letters, 46	10.1029/2018GL080904	国際誌	発表済	
2019	Zhoumin Xie, Yongen Cai, Chi-yuen Wang, Shoichi Yoshioka and Momo Tanaka, "Fault stress inversion reveals seismogenic asperity of the 2011 Mw 9.0 Tohoku-Oki earthquake", Scientific Reports, 2019.08.9-, pp.11987	10.1038/s41598-019-47992-x	国際誌	発表済	
2019	中野元太・矢守克也・杉山高志, 教授者と学習者との間の主従関係に基づく主体性形成の一考察—メキシコと日本の中学校との津波合同避難訓練を通して—, 災害と共生, 2019, Vol.3(1), pp.39-47.	10.18910/73154	国内誌	発表済	
2019	Goltz, J. D., Park, H., Nakano, G., & Yamori, K. Earthquake Spectra, Earthquake ground motion and human behavior: Using DYFI data to assess behavioral response to earthquakes. Published online.	10.1177/8755293019899958	国際誌	発表済	オンライン・ファーストで発表済み。次号掲載予定。
2019	Fukui, N., A. Prasetyo, N. Mori (2019) Numerical modeling of tsunami inundation using upscaled urban roughness parameterization, Coastal Engineering, Elsevier, Volume 152, October 2019, 103534.	10.1016/j.coastaleng.2019.103534	国際誌	発表済	
2019	Prasetyo, A., T. Yasuda, T. Miyashita, N. Mori (2019) Physical modeling and numerical analysis of tsunami inundation in a coastal city, Frontiers in Built Environment, Vol.5, doi:10.3389/fbuil.2019.00046, 19 p.	10.3389/fbuil.2019.00046	国際誌	発表済	
2019	Goda, K., N. Mori, T. Yasuda (2019) Rapid tsunami loss estimation using regional inundation hazard metrics derived from stochastic tsunami simulation, International Journal of Disaster Risk Reduction, 7 April 2019, 101152.	10.1016/j.ijdrr.2019.101152	国際誌	発表済	
2019	Goda, K., N. Mori, T. Yasuda, A. Prasetyo, A. Muhammad, D. Tsujio (2019) Cascading geological hazards and risks of the 2018 Sulawesi Indonesia Earthquake and sensitivity analysis of tsunami inundation simulations, Frontiers in Earth Science, 10.3389/feart.2019.00261.	10.3389/feart.2019.00261	国際誌	発表済	
2019	Moya, L., Mas, E., Yamazaki, F., Liu, W., Koshimura, S. (2020). Statistical analysis of earthquake debris extent from wood-frame buildings and its use in road networks in Japan	10.1177/8755293019892423	国際誌	accepted	
2019	Moya, L., H. Zakeri, F. Yamazaki, W. Liu, E. Mas, S. Koshimura, 3D gray level co-occurrence matrix and its application to identifying collapsed buildings, ISPRS Journal of Photogrammetry and Remote Sensing, Vol.149, pp.14-28, 2019.	10.1016/j.isprsjprs.2019.01.008	国際誌	accepted	
2020	Jorge Zavala-Hidalgo, Katia Trujillo-Rojas, Octavio Gómez-Ramos, Miriam Zarza-Alvarado, Felipe Hernández-Maguey & Valente Gutiérrez-Quijada (2020): Tsunamis in the Mexican coasts during the period 2009-2018 and their behavior, Coastal Engineering Journal	10.1080/21664250.2020.1744062	国際誌	発表済	
2020	Miyashita, T., N. Mori, K. Goda (2020) Uncertainty of probabilistic tsunami hazard assessment of Zihuatanejo (Mexico) due to the representation of tsunami variability, Coastal Engineering Journal, Taylor & Francis, Vol.62, Issue 3, pp.413-428.	10.1080/21664250.2020.1780676	国際誌	発表済	
2020	Villafuerte, C., V. M. Cruz-Atienza, J. Tago, D. Solano-Rojas, R. Garza-Girón, S. I. Franco, L. A. Dominguez and V. Kostoglodov (2020). Slow slip events and megathrust coupling changes reveal the earthquake potential before the 2020 Mw 7.4 Huatulco, Mexico event	10.1002/essoar.10504796.3		発表済	
2020	Nakano, G., Yamori, K., Miyashita, T., Urra, L., Mas, E., & Koshimura, S. (2020). Combination of school evacuation drill with tsunami inundation simulation: Consensus-making between disaster experts and citizens on an evacuation strategy. International Journal of Disaster Risk Reduction, 101803.	https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2020.101803	国際誌	発表済	

論文数 60 件
うち国内誌 6 件
うち国際誌 47 件
公開すべきでない論文 0 件

③その他の著作物(相手国側研究チームとの共著)(総説、書籍など)

年度	著者名, タイトル, 掲載誌名, 巻数, 号数, 頁, 年	出版物の種類	発表済 / in press / accepted の別	特記事項

著作物数 0 件

公開すべきでない著作物 0件

④その他の著作物(上記③以外)(総説、書籍など)

年度	著者名,論文名,掲載誌名,出版年,巻数,号数,はじめ-おわりのページ		出版物の種類	発表済 /in press /acceptedの別	特記事項
2017	Mori, N., K. Goda and D.T. Cox (2017) Recent process in Probabilistic Tsunami Hazard Analysis (PTHA) for mega thrust subduction earthquakes. In The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and Restoration; Insights and Assessment after 5 Years, Ed.Vicente Santiago-Fandino, Springer, pp.469-485.		書籍	発表済	
2019	畑山満則, 矢守克也, Ana Maria CRUZ, 横松宗太, 大西正光, 中野元太, 石森, 宮本匠. 巨大災害研究の現状と展望(3), 京都大学防災研究所年報, 62, A, 57-69.		年報	発表済	SATREPSプロジェクトC-1およびC-2に関する進捗報告あり

著作物数 2件

公開すべきでない著作物 0件

VI. 成果発表等

(2) 学会発表【研究開始～現在の全期間】(公開)

①学会発表(相手国側研究チームと連名)(国際会議発表及び主要な国内学会発表)

年度	国内/ 国際の別	発表者(所属)、タイトル、学会名、場所、月日等	招待講演 /口頭発表 /ポスター発表の別
2015	国際学会	Julie Maury, Satoshi Ide, Victor M Cruz-Atienza, Vladimir Kostoglodov and Xyoli Perez-Campos, University of Tokyo, Bunkyo-ku, Japan, Universidad Nacional Autonoma de Mexico, Mexico City, Mexico, UNAM National Autonomous University of Mexico, Mexico City, Mexico), Focal Mechanism from Very Low Frequency Earthquakes Associated with Tectonic Tremors in Guerrero, Mexico, (94076), oral.	口頭発表
2016	国際学会	Manea, M. (UNAM), V. C. Manea (UNAM) and S. Yoshioka (Kobe U.), Subduction of oceanic plate irregularities in Mexico and Japan and the influence on large megathrust earthquakes, 日本地球惑星科学連合2016年大会, May 23, Poster.	ポスター発表
2015	国際学会	Maury, J., Ide, S., Cruz-Atienza, V. M., Kostoglodov, V., Perez-Campos, X. Tremor location in Guerrero, Mexico from catalog comparison: identification of new clusters, JPGU 2016, May 22.	口頭発表
2016	国際学会	Prasetyo, A., T. Tomiczek, T. Yasuda, N. Mori, H. Mase, A. Kennedy (2016) Physical experiments of tsunami runup and force on building cluster using a hybrid tsunami generator, Coastlab2016, Ottawa, 1p.	口頭発表
2016	国際学会	Suenaga, N. (Kobe U.), Y. Ji (Kobe U.), S. Yoshioka (Kobe U.), V. C. Manea (UNAM) and M. Manea (UNAM), 3D thermal convection modeling associated with subduction of the Cocos plate in southern Mexico - Effects of trench retreat on temperature and flow fields -, Joint Workshop on Slow Earthquakes 2016, Sep 13, Poster.	ポスター発表
2016	国際学会	T. Nishimura (DPRI, KU) and C. Kostoglodov (UNAM), Preliminary result on detecting short-term SSEs in the Mexican subduction zone, Joint work shop on slow earthquakes 2016, Sep. 14, P01	ポスター発表
2016	国際学会	Vladimir Kostoglodov, Nathalie Cotte, Andrea Walpersdorf, and Jose Antonio Santiago (Instituto de Geofísica, Universidad Nacional Autónoma de México, México City, Mexico. Institut des Sciences de la Terre, Université Joseph Fourier, CNRS, IRD, Grenoble, France), Large slow slip events in Mexico from tide gauge records, Sept. 14, oral. Joint Workshop on Slow Earthquakes ERI, Tokyo, 2016.	口頭発表
2016	国際学会	Suenaga, N. (Kobe U.), Y. Ji (Kobe U.), S. Yoshioka (Kobe U.), M. Manea (UNAM) and V. C. Manea (UNAM), Numerical simulations of temperature, dehydration, and flow fields associated with subduction of the cocos plate, and its relation to the occurrence of interplate seismic events in southern mexico, Annual Meeting 2016, Mexico, Nov 1, Oral.	口頭発表
2016	国際学会	Angel Ruiz-Angulo(UNAM), Nobuhito Mori(U.Kyoto), Katsuichiro Goda (U. Bristol), Tomohiro Yasuda (U. Kansai), Toshitaka Baba (U. Tokushima), Shunichi Koshimura (U. Tohoku), Erick Mas (U. Tohoku), Luisa Urrea (U. Tohoku), Bruno Adriano (U. Tohoku), Jorge Zavala-Hidalgo (UNAM), Vala Hjorleifsdottir (UNAM), Yoshihiro Ito (DPRI), Victor Cruz-Atienza (UNAM). OVERVIEW OF THE SATREPS TSUNAMI MODELING GROUP: COMPREHENSIVE TSUNAMI HAZARD ASSESSMENT OF THE MEXICAN PACIFIC COAST. RAUGM 2016, Nov 1, Talk.	口頭発表
2016	国際学会	Maury Julie, Ide Satoshi, Cruz-Atienza Víctor Manuel, Kostoglodov Vladimir and Pérez-Campos Xyoli, Detection of very low frequency earthquakes in the Mexican subduction zone, SE12-5, Unión Geofísica Mexicana, UGM-2016, oral.	口頭発表
2016	国際学会	Kostoglodov, V. (UNAM), V. M. Cruz Atienza, A. Husker, Y. Ito, Unveiling the mystery of the Guerrero Seismic Gap, Reunión Anual de la Unión Geofísica Mexicana, Puerto Vallarta, México, 30 Oct. - 4 Nov., 2016, Poster.	ポスター発表
2016	国際学会	Kostoglodov Vladimir, Cruz-Atienza Víctor Manuel, Husker Allen (UNAM) and Yoshihiro Ito (DPRI), Unveiling the mystery of the Guerrero seismic gap, SE12-1, Unión Geofísica Mexicana, UGM-2016, oral.	口頭発表
2016	国際学会	Maury, J., Ide, S., Cruz-Atienza, V. M., Kostoglodov, V., Perez-Campos, X. Detection of Very Low Frequency earthquakes in the Mexican subduction zone, AGU 2016, Dec 15	口頭発表
2016	国際学会	Suenaga, N. (Kobe U.), Y. Ji (Kobe U.), S. Yoshioka (Kobe U.), M. Manea (UNAM) and V. C. Manea (UNAM), Numerical simulations of temperature, dehydration, and flow fields associated with subduction of the Cocos plate, and its relation to the occurrence of interplate seismic events in southern Mexico, AGU FALL MEETING 2016, United States, Dec 13, Poster.	ポスター発表
2016	国内学会	森信人・合田且一郎・Angel ANGULO・安田誠宏・メキシコ太平洋側の確率的津波評価、平成28年度京都大学防災研究所研究発表講演会、2017年2月22日、口頭発表。	口頭発表
2016	国内学会	Maury, J., Ide, S., Cruz-Atienza, V. M., Kostoglodov, V., Perez-Campos, X. Slow earthquakes along the Mexican subduction, C01C02 joint study group, Fukuoka, Feb 21	口頭発表
2017	国際学会	Allen Husker, Vladimir Kostoglodov, Satoshi Ide, Oral: A2: Summary of 2-years achievements on the SATREPS project, Modalidad: Presencial, Workshop on the collaborative project between Japan and Mexico: Hazard Assessment of Large Earthquakes and Tsunamis in the Mexican Pacific Coast for Disaster Mitigation, Nara, 2017 Jul.	口頭発表
2017	国際学会	Vladimir Kostoglodov, Victor Cruz-Atienza, Allen Husker, Yoshihiro Ito, Oral: SATREPS onshore networks: Scientific goals and expected results, Modalidad: Presencial, Workshop on the collaborative project between Japan and Mexico: Hazard Assessment of Large Earthquakes and Tsunamis in the Mexican Pacific Coast for Disaster Mitigation, Mexico, 2017 Jul.	口頭発表

2017	国際学会	Fukui, I., N. Mori, A. Prasetyo, H. Mase (2017) Numerical modeling of tsunami inundation over coastal city using drag force parameterization, International Tsunami Symposium 2017, Bali, Indonesia.	口頭発表
2017	国際学会	Prasetyo, A., T. Yasuda, N. Mori, H. Mase (2017) Physical and numerical modeling of tsunami inundation, International Tsunami Symposium 2017, Bali, Indonesia.	口頭発表
2017	国際学会	Yasuda, T., A. Prasetyo, N. Mori, H. Mase (2017) Physical Model Experiment of Tsunami Inundation with Arbitrary Waveform Generation, International Tsunami Symposium 2017, Bali, Indonesia.	口頭発表
2017	国際学会	Mori, N., K. Goda and D.T. Cox (2017) Overview of Probabilistic Tsunami Hazard Assessment and Its Application, International Tsunami Symposium 2017, Bali, Indonesia.	口頭発表
2017	国際学会	Miyashita, T., N. Mori, D. T. Cox (2017) Simulation of tsunami inundation in city scale model, The 7th International Conference on Flood Management (ICFM7), Reeds, UK.	口頭発表
2017	国際学会	Maury, J., Ide, S., Cruz-Atienza, V., and Kostoglodov, V., Spatio-temporal variations in slow earthquakes along the Mexican subduction zone, 2017 American Geophysical Union Fall Meeting, AGU 2017, Dec 14	口頭発表
2018	国内学会	225. Shoichi Yoshioka, Yingfeng Ji, Vlad C. Manea and Marina Manea, 環太平洋沈み込み帯における温度・脱水分布とプレート間地震の解明に向けて, 研究集会「夢のある話を」, 京都, 2018年3月	口頭発表
2018	国際学会	Yoshioka, S. (Kobe U.), Y. Ji (Kobe U.), V. C. Manea (UNAM) and M. Manea (UNAM), Seismogenesis of Double Subduction Beneath Kanto, Central Japan Controlled by Fluid Release, 10th ACES International Workshop, 南あわじ, 2018/9/25	口頭発表
2018	国際学会	Yoshioka, S. (Kobe U.), Y. Ji (Kobe U.), V. C. Manea (UNAM), M. Manea (UNAM), Seismogenesis of Dual Subduction Beneath Kanto, Central Japan Controlled by Fluid Release, AGU Fall Meeting 2018, Washington, D.C., 2018/12/11	口頭発表
2019	国際学会	Yinfeng Ji (CAS, China), Shoichi Yoshioka (Kobe Univ., Japan), Vlad C. Manea (UNAM, Mexico), Marina Manea (UNAM, Mexico), Nobuaki Suenaga (Kobe Univ., Japan), Subduction thermal structure, metamorphism and seismicity beneath northcentral Chile, 27th IUGG General Assembly, Montreal, Canada, 2019/7	口頭発表
2019	国際学会	Francisco J Sanchez-Sesma (UNAM, Mexico), Hugo Cruz-Jimenez (UNAM, Mexico), Adrian Ruelas (CONACYT, Mexico), Mario A. Ortega-Rodriguez (UNAM, Mexico), Kristel C. Meza-Fajardo (BRGM, France), Fumiaki Nagashima (DPRI, Japan), Sunyoung Park (Caltech, U.S.), Mario Ordaz (UNAM, Mexico) and Javier Francisco Lermo (UNAM, Mexico), Towards a deep understanding of the seismic response of the Mexico City Valley: A study based on diverse spectral ratios and numerical simulations, AGU fall meeting, San Francisco, California, U.S., Dec. 2019	口頭発表
2019	国際学会	Ito Yoshihiro, Cruz Atienza Víctor Manuel, Ide Satoshi, Husker Allen, Yoshioka Shoichi, Mori Nobuhito, Zavala Hidalgo Jorge, Hatayama Michinori, Novelo Casanova David Alberto, Yamori Katsuya, Zepeda Ramos Oscar, Nakano Genta and Sánchez Pérez Tomás, Hazard Assessment of Large Earthquakes and Tsunamis for Disaster Mitigation in the Mexican Pacific Coast, Annual Meeting 2019 Mexican Geophysical Union, Puerto Vallarta, Mexico. 27 October - 1 November, 2019	口頭発表
2019	国際学会	Plata-Martínez, R., Y. Ito, S. Ide, N. Mizuno, M. Shinohara, T. Yamada, A. Husker, J. Real, V. M. Cruz-Atienza, Y. Yamashita, and A. Toh, First insight in OBS data and shallow tremor detection at the Guerrero. International Joint Workshop on Slow Earthquakes 2019, P5-11.	ポスター発表
2019	国際学会	Plata-Martínez, R., Y. Ito, S. Ide, N. Mizuno, M. Shinohara, T. Yamada, A. Husker, J. Real, V. M. Cruz-Atienza, Y. Yamashita, and A. Toh, 2019, OBS detection of shallow tremors at the Guerrero Gap, México, Reunión Anual Geofísica Mexicana 2019, SE12-3 0487.	口頭発表
2019	国際学会	Plata-Martínez, R., Y. Ito, S. Ide, N. Mizuno, M. Shinohara, T. Yamada, A. Husker, J. Real, V. M. Cruz-Atienza, Y. Yamashita, and A. Toh, First insight in OBS data and shallow tremor detection at the Guerrero Gap, Mexico, AGU 2019 Fall meeting, S13F-0499.	ポスター発表
2019	国際学会	Ito, Y., and V. M. Cruz-Atienza, Hazards Assessment of Large Earthquakes and Tsunamis for Disaster Mitigation in the Mexican Pacific Coast "Japan - Mexico SATREPS Project (2016 - 2021)", RAUGM2019 (October 31, 2019, Puerto Vallarta, Mexico)	口頭発表
2019	国際学会	Emmanuel Soliman M. Garcia, Yoshihiro Ito, Victor M. Cruz-Atienza, Jorge Zavala, Vala Hjorleifsdottir, Jorge Real, Vladimir Kostoglodov, Elena Osorio and Tomohiro Inoue, Time Scales of Ocean Bottom Pressure Variability from Numerical Simulations and Satellite Observations over a Seafloor Seismogeodetic Array in the Guerrero Seismic Gap, RAUGM2019 (October 31, 2019, Puerto Vallarta, Mexico)	口頭発表
2019	国際学会	M. Miyazawa (Kyoto Univ) & M. A. Santoyo (UNAM), Remotely triggered tectonic tremor at Jalisco in the Mexican subduction zone by the 2017 Mw8.2 Tehuantepec earthquake, RAUGM 2019, Perto Vallarta (Mexico), 2019/10/31	口頭発表
2019	国際学会	Raymundo Plata-Martínez (Kyoto Univ.), Yoshihiro Ito (Kyoto Univ.), Satoshi Ide (Univ, Tokyo), Naoto Mizuno (Univ, Tokyo), Masanao Shinohara (Univ, Tokyo), Tomoaki Yamada (Univ, Tokyo), Allen Husker (UNAM), Jorge Real (UNAM), Victor M. Cruz Atienza (UNAM), Yusuke Yamashita (Kyoto Univ.), Akiko Toh (Univ. Tokyo). First insight in OBS data and shallow tremor detection at the Guerrero. International Joint Workshop on Slow Earthquakes, Sendai, Japan. 2019/9/21-22.	ポスター発表
2019	国際学会	Raymundo Plata-Martínez (Kyoto Univ.), Yoshihiro Ito (Kyoto Univ.), Satoshi Ide (Univ, Tokyo), Naoto Mizuno (Univ, Tokyo), Masanao Shinohara (Univ, Tokyo), Tomoaki Yamada (Univ, Tokyo), Allen Husker (UNAM), Jorge Real (UNAM), Victor M. Cruz Atienza (UNAM), Yusuke Yamashita (Kyoto Univ.), Akiko Toh (Univ. Tokyo). OBS detection of shallow tremors at the Guerrero Gap, Mexico. Reunión Anual Geofísica Mexicana, Puerto Vallarta, México. 2019/10/31.	口頭発表

2019	国際学会	Raymundo Plata-Martínez (Kyoto Univ.), Yoshihiro Ito (Kyoto Univ.), Satoshi Ide (Univ, Tokyo), Naoto Mizuno (Univ, Tokyo), Masanao Shinohara (Univ, Tokyo), Tomoaki Yamada (Univ, Tokyo), Allen Husker (UNAM), Jorge Real (UNAM), Victor M. Cruz Atienza (UNAM), Yusuke Yamashita (Kyoto Univ.), Akiko Toh (Univ. Tokyo). First insight in OBS data and shallow tremor detection at the Guerrero Gap, Mexico. American Geophysical Union Fall Meeting, San Francisco, USA. 2019/12/9.	ポスター発表
2020	国内学会	宮下 卓也, GOMEZ-RAMOS Octavio, 森 信人 (2020) 適合格子細分化法を用いた南海トラフ沿いの巨大地震津波の数値計算, 海岸工学講演会, バーチャル, 10月	口頭発表
2020	国際学会	Miyazawa, M., Santoyo, M.Á. Characteristics of tectonic tremors in the northern Mexican subduction zone remotely triggered by the 2017 Mw8.2 Tehuantepec earthquake JpGU-AGU Joint Meeting 2020, online, 2020/7/12-15	ポスター発表
2020	国際学会	Plata-Martínez R. O., S. Ide, M. Shinohara, E.S.M. Garcia S., N. Mizun, L.A. Dominguez, T. Taira, Y. Yamashita, A. Toh, T. Yamada, J.A. Real, V.M. Cruz-Atienza, A. Husker, and Y. Ito, 2020. First detection of shallow tremor at the Guerrero gap, Mexico. Japan Geoscience Union JpGU-AGU Joint Meeting 2020, S-CG58.	口頭発表
2020	国際学会	Plata-Martínez R. O., Y. Ito, and V.M.Cruz-Atienza, 2020. Explorando nuestro planeta para descifrar sus secretos: ejemplo de un proyecto multidisciplinario entre México y Japón. Reunión Anual de la Unión Geofísica Mexicana, 2020, SE12-01.	口頭発表
2020	国際学会	Plata-Martínez R. O., S. Ide, M. Shinohara, E.S.M. Garcia S., N. Mizun, L.A. Dominguez, T. Taira, Y. Yamashita, A. Toh, T. Yamada, J.A. Real, V.M. Cruz-Atienza, A. Husker, and Y. Ito, 2020. Shallow slow earthquakes and mechanical properties at the Guerrero seismic Gap, Mexico, American Geophysical Union Fall Meeting 2020, S027-0013.	ポスター発表
2020	国内	末永 伸明・吉岡 祥一, 琉球海溝周辺におけるフィリピン海プレートの沈み込みに伴う3次元熱対流数値シミュレーション, 新学術領域研究「スロー地震学」C01班オンライン研究集会, オンライン, 2020/4/14	口頭発表
2020	国内	吉岡 祥一・末永 伸明・阿部 大毅, 最近の研究成果と今年度の取り組みについて, 新学術領域研究「スロー地震学」C01班オンライン研究集会, オンライン, 2020/4/14	口頭発表
2020	国内	Nobuaki Suenaga, Shoichi Yoshioka, 3-D thermal modeling of generation mechanisms for short-term slow slip events and low-frequency earthquakes along the Ryukyu trench, JpGU-AGU Joint Meeting 2020, オンライン, 2020/7/9-16	ポスター発表
2020	国内	阿部 大毅・吉岡 祥一, 2011年東北地方太平洋沖地震前15年間のプレート間カップリングの時空間分布の推定, JpGU-AGU Joint Meeting 2020, オンライン, 2020/7/12	口頭発表
2020	国内	吉岡 祥一・末永 伸明・阿部 大毅, 最近の研究成果について, Slow Earthquakes WS 2020 Virtual, オンライン, 2020/9/17	口頭発表
2020	国内	吉岡 祥一, 東北地方太平洋沖地震後の余効すべりと固着の分布~温度に依存する粘性構造モデルを用いて~, 神戸大学都市安全研究センター第1回 震災復興・災害科学シンポジウム 東日本大震災から10年 ~わかってきたこと、今伝えたいこと~, オンライン, 2021/1/9	口頭発表
2020	国際	Nobuaki Suenaga, Shoichi Yoshioka, Vlad C. Manea and Marina Manea, Three-dimensional thermal modeling associated with subduction of the Cocos plate beneath southwestern Mexico, and its relation to the occurrence of interplate seismic events, Online Workshop in February 2021 for "The Project for Hazard Assessment of Large Earthquakes and Tsunamis in the Mexican Pacific Coast for Disaster Mitigation", オンライン, 2021/2/26	口頭発表
2020	国内	阿部 大毅・吉岡 祥一, 2011年東北地方太平洋沖地震前14年間のプレート間カップリングの時空間分布の推定, 新学術領域研究「スロー地震学」C01班オンライン研究集会, オンライン, 2021/3/31	口頭発表

招待講演 0 件
口頭発表 40 件
ポスター発表 12 件

②学会発表(上記①以外)(国際会議発表及び主要な国内学会発表)

年度	国内/ 国際的別	発表者(所属)、タイトル、学会名、場所、月日等	招待講演 /口頭発表 /ポスター発表の別
2015	国際学会	Miguel Angel Santoyo, Vladimir Kostoglodov and Victor M Cruz-Atienza, (Universidad Nacional Autónoma de México UNAM, Instituto de Geofísica, Unidad Michoacán, Morelia Michoacán, Mexico, UNAM, Instituto de Geofísica, Mexico City, Mexico), Stress Transfer by Slow Slip Events in the Guerrero Segment of Plate Interface in the Mexican Subduction Zone. (94204), T-45, poster.	ポスター発表
2015	国際学会	Nathalie Cotte, Hugo Perfettini, Mathilde Radiguet, Vladimir Kostoglodov, Andrea Walpersdorf, Michel Campillo and Bernard Valette, (ISTerre Institute of Earth Sciences, Saint Martin d'Hères, France, UNAM National Autonomous University of Mexico, Mexico City, Mexico), (93979), oral.	口頭発表
2015	国際学会	William Frank, Nikolai Shapiro, Allen L Husker, Vladimir Kostoglodov, Mathilde Radiguet, Baptiste Rousset, Alexander A Gusev, Nathalie Cotte and Michel Campillo, (Massachusetts Institute of Technology, Department of Earth, Atmospheric, and Planetary Sciences, Cambridge, MA, United States, Institut de Physique du Globe de Paris, Paris, France, Institute of Volcanology and Seismology, Petropavlovsk Kamchatsky, Russia, UNAM National Autonomous University of Mexico, Mexico City, Mexico, ISTerre Institute of Earth Sciences, Saint Martin d'Hères, France, Pinpointing transient aseismic slip at depth with seismological observations Complexity of the seismic cycle in Guerrero, Mexico : long term coupling modified by slow slip events, as inferred by cGPS, (94064), oral.	口頭発表

2015	国際学会	Baptiste Rousset, Michel Campillo, Cecile Lasserre, William Frank, Anne Socquet, Nathalie Cotte, Andrea Walpersdorf and Vladimir Kostoglodov, (ISTerre Institute of Earth Sciences, Saint Martin d'Hères, France, Massachusetts Institute of Technology, Department of Earth, Atmospheric, and Planetary Sciences, Cambridge, MA, United States, UNAM National Autonomous University of Mexico, Mexico City, Mexico), Geodetic Matched Filter Search of Low Amplitude Slow Slip Events on the Mexican Subduction Zone, (94083), oral.	口頭発表
2015	国際学会	Jorge Arturo Real Sr., Vladimir Kostoglodov and Allen L Husker, (UNAM National Autonomous University of Mexico, Mexico City, Mexico), Detection of Nonvolcanic Tremors using Spectral Cross-Correlation, (94206), poster.	ポスター発表
2015	国際学会	Vladimir Kostoglodov, Allen L Husker, Jose Antonio Santiago, Nathalie Cotte and Andrea Walpersdorf, (UNAM National Autonomous University of Mexico, Mexico City, Mexico, ISTerre Institute of Earth Sciences, Saint Martin d'Hères, France), Slow Slip Events on the Strike Slip Fault in Guerrero, Mexico, (94149), poster.	ポスター発表
2015	国際学会	Nathalie Cotte, Hugo Perfettini, Mathilde Radiguet(ISTerre), Vladimir Kostoglodov (UNAM), Andrea Walpersdorf, Michel Campillo and Bernard Valette (ISTerre), Complexity of the seismic cycle in Guerrero, Mexico: long term coupling modified by slow slip events, as inferred by cGPS, AGU Chapman conference, 2016, poster.	ポスター発表
2015	国際学会	Baptiste Rousset, Michel Campillo, Cecile Lasserre, William Frank, Anne Socquet, Nathalie Cotte, Andrea Walpersdorf and Vladimir Kostoglodov, Geodetic Matched Filter Search of Low Amplitude Slow Slip Events on the Mexican Subduction Zone, AGU Chapman conference, 2016, poster.	ポスター発表
2015	国際学会	Vladimir Kostoglodov, Allen L Husker, Jose Antonio Santiago(UNAM), Nathalie Cotte and Andrea Walpersdorf (ISTerre), Slow Slip Events on the Strike Slip Fault in Guerrero, Mexico, AGU Chapman conference, 2016, oral.	口頭発表
2015	国際学会	Miguel Angel Santoyo, Vladimir Kostoglodov and Victor M Cruz-Atienza(UNAM), Stress Transfer by Slow Slip Events in the Guerrero Segment of Plate Interface in the Mexican Subduction Zone, AGU Chapman conference, 2016, poster.	ポスター発表
2015	国際学会	Husker, A. L., L. Ferrari, C. Arango, F. Corbo, J. Arzate-Flores (UNAM), SSE induced seismic gap: A permanently reduced seismic hazard, Chapman Conference Slow Slip Phenomena, Ixtapa, Mexico, 21-25 Feb. , 2016, Poster.	ポスター発表
2015	国際学会	Kostoglodov, V., A. L. Husker, J. A. Santiago(UNAM), N. Cotte, A. Walpersdorf(ISTerre), Slow Slip Events on the Strike Slip Fault in Guerrero, Mexico, Chapman Conference Slow Slip Phenomena, Ixtapa, Mexico, 21-25 Feb. , 2016, Poster.	ポスター発表
2015	国際学会	Real, J. A., V. Kostoglodov, A. L. Husker (UNAM), Detection of Nonvolcanic Tremors using Spectral Cross-Correlation, Chapman Conference Slow Slip Phenomena, Ixtapa, Mexico, 21-25 Feb. , 2016, Poster.	ポスター発表
2016	国際学会	Thingbaijam, K.K.S, P. M. Mai, K., T. Yasuda, T. Maruyama, and N. Mori (DPRI), Earthquake scaling laws for rupture geometry and slip heterogeneity, EGU Annual meeting, Vienna 2016. (Poster)	ポスター発表
2016	国際学会	Prasetyo, A., T. Tomiczek, T. Yasuda, N. Mori, H. Mase, A. Kennedy (DPRI) (2016) Physical experiments of tsunami runup and force on building cluster using a hybrid tsunami generator, Coastlab2016, Ottawa, 1p. (Oral)	口頭発表
2016	国内学会	Ito, Y. (DPRI), and M. Ikari (MARUM), Two effects of slow earthquakes on large megathrust earthquakes: Triggering and facilitating of coseismic slip, JpGU meeting 2016, 2016, May 23, Oral	口頭発表
2016	国際学会	Ji, Y. (Kobe U.) and S. Yoshioka (Kobe U.), Three-dimensional numerical modeling for subduction thermal regime, slab dehydration, and mantle flow beneath Kanto to Tohoku, Japan, 日本地球惑星科学連合2016年大会, May 24.	口頭発表
2016	国際学会	Katakami, S., Y. Ito, K. Ohta (DPRI), R. Hino , S. Suzuki(TOHOKU U), and M. Shinohara (U TOKYO), Detecting tectonic tremor through frequency scanning at a single station in the Japan Trench subduction zone, SSS02-P03, Japan Geoscience Union Meeting 2016, Chiba, Japan, 22 May.	口頭発表
2016	国際学会	Tomoya Muramoto, Yoshihiro Ito (DPRI), Daisuke Inazu (TUMSAT), Stuart Henrys, Laura Wallace, Stephen Bannister (GNS Science), Kimihiro Mochizuki (U TOKYUO), Ryota Hino, Syuichi Suzuki (TOHOKU U), Estimation of Small Slow Slip events on the Northern Hikurangi Margin, The workshop on Slow Earthquakes 2016, Tokyo, Japan, 2016/9/13	ポスター発表
2016	国際学会	H.S. Sánchez-Reyes (UGA), J. Tago (UNAM), V.M. Cruz-Atienza (UNAM), L. Métivier (UGA) and J. Virieux (UGA), "Inversión 3D de la cinemática de la fuente sísmica", in 4to. Congreso Metropolitano de Modelado y Simulación Numérica, D.F., Mexico, May 18-20 2016, Oral.	口頭発表
2016	国際学会	畑 真紀 (産総研), 上嶋 誠 (東京大学 地震予知研究センター), 末永 伸明 (神戸大), 吉岡 祥一 (神戸大), 九州地方の電気伝導度構造と温度構造から求められたマンツルの流体分布, 日本地球惑星科学連合2016年大会, 2016, May 24.	口頭発表
2016	国際学会	Ji, Y. (Kobe U.) and S. Yoshioka (Kobe U.), Slab Dehydration, Interplate Hydrusity and Seismic Distribution in Modeling deformation, faulting, and mountain building in the island-arc crust of northeastern and central Japan considering heterogeneous thermal structure, Crustal Dynamics 2016, Jul 21, Poster.	ポスター発表
2016	国際学会	Porritt, R. W. (U. Arizona) and S. Yoshioka (Kobe U.), Mapping Crustal Structure Change in Tohoku With Time Varying P-to-S Receiver Functions, Crustal Dynamics 2016, Jul 21.	ポスター発表
2016	国際学会	Hata, M. (AIST), M. Uyeshima (EPRC), S. Yoshioka (Kobe U.), N. Suenaga (Kobe U.) and T. Matsumoto (NIED), Geo-fluids distribution in mantle inferred from the electrical conductivity and simulated thermal, 23rd Electromagnetic Induction Workshop, Thailand, Aug 20.	口頭発表

2016	国際学会	Yoshioka, S. (Kobe U.), Y. Ji (Kobe U.) and T. Matsumoto (NIED), Three-dimensional numerical modeling of temperature and dehydration fields associated with subduction of the Philippine Sea plate, southwest Japan, 35rd General Assembly of the European Seismological Commission, Italy, Sep 6.	口頭発表
2016	国際学会	J. Tago (UNAM), H.S. Sánchez-Reyes (UGA), L. Métivier (UGA), R. Brossier (UGA) and J. Virieux (UGA), "Inversión de la cinemática de la ruptura sísmica usando el método del adjunto", in the Third International Conference on Mathematics and its Applications, Puebla, Mexico, Sept. 5-9 2016, Oral.	口頭発表
2016	国際学会	Katakami, S., S. Ito, K. Ohta (DPRI), R. Hino, S. Suzuki (TOHOKU U), M. Shinohara (U TOKYO), Activity of micro Low Frequency tremor through frequency scanning at a single station near the Japan Trench before occurring Tohoku-Oki earthquake, Joint workshop on slow earthquakes 2016 in Tokyo, Tokyo, Japan, 9.14, 2016 (Oral)	口頭発表
2016	国際学会	植村美優,伊藤喜宏,太田和晃 (DPRI),日野亮太 (TOHOKU U),篠原雅尚 (U. TOKYO), A Trial for Detecting Temporal Variation in Seismic Velocity Accompanied by a Slow Slip Event, Using Seismic Interferometry of Ambient Noise, スロ地震研究会(9/13,14,15)	ポスター発表
2016	国際学会	Yoshioka, S. (Kobe U.), Y. Ji (Kobe U.) and T. Matsumoto (NIED), Three-dimensional numerical modeling of temperature and dehydration associated with subduction of the Philippine Sea plate, southwest Japan, The 1st Asia-Pacific Workshop on Lithosphere and Mantle Dynamics, Taiwan, Sep 23	招待講演
2016	国内学会	Ji, Y. (Kobe U.) and S. Yoshioka (Kobe U.), Slab dehydration, thermal regime, the distribution of tectonic tremors and seismicity beneath Hikurangi, 日本地震学会秋季大会, Oct 5, Oral.	口頭発表
2016	国内学会	片上智史, 伊藤喜宏, 太田和晃(DPRI), 日野亮太, 鈴木秀一(U TOKYO), 篠原雅尚(U TOKYO), 2016, 2011年東北地方太平洋沖地震発生前に海溝軸近傍で発生するLow Frequency micro Tremor, S09-06, 日本地震学会講演予稿集2016年度秋季大会, 名古屋, 10月6日	口頭発表
2016	国内学会	村本智也・伊藤喜宏(DPRI)・稲津大祐(東京海洋大)・日野亮太・鈴木秀一(東北大), 2016, Stuart Henrys, Stephen Bannister, Laura Wallace, 海底観測によるヒクランギ沈み込み帯で発生するスロースリップイベントの検出, S03-P04, 日本地震学会講演予稿集2016年度秋季大会, 名古屋, 10月6日	口頭発表
2016	国内学会	植村美優・伊藤喜宏・太田和晃(DPRI)・日野亮太(TOHOKU U)・篠原雅尚(U TOKYO), 2016, 常時微動を用いた地震波干渉法によるスロースリップに伴う地震波速度変化検出の試み, S01-P05, 日本地震学会講演予稿集2016年度秋季大会, 名古屋, 10月6日	ポスター発表
2016	国際学会	Ito, Y. (DPRI), How to use slow earthquakes: Monitoring and exploiting slow earthquakes to megathrust event, RAUGM 2016, 2016, Nov. 1, Oral	口頭発表
2016	国際学会	Ávila Sánchez, L., A. L. Husker (UNAM), Elaboration of catalogues for tectonic tremor detection associated to subduction zones in Mexico, Reunión Anual de la Unión Geofísica Mexicana, Puerto Vallarta, México, 30 Oct. - 4 Nov. , 2016, Poster.	ポスター発表
2016	国際学会	Real Pérez Jorge Arturo, Kostoglodov Vladimir, Mendoza Carvajal Antonio de Jesús and Martínez Montero Mauricio(UNAM), Detección automática de tremores no volcánicos con las estaciones de la red G-gap, SIS-44, Unión Geofísica Mexicana, UGM-2016, poster.	ポスター発表
2016	国際学会	González, G. A. Husker(UNAM), Low frequency earthquakes study in the Jalisco state, Mexico, Reunión Anual de la Unión Geofísica Mexicana, Puerto Vallarta, México, 30 Oct. - 4 Nov. , 2016, Poster.	ポスター発表
2016	国際学会	Genta Nakano (Graduate School of Informatics) and Katsuya Yamori (DPRI), A study on inter-local adaptation of disaster education material, Annual Meeting 2016 Mexican Geophysical Union 2016, October 30 to November 4. Oral Presentation	口頭発表
2016	国際学会	Maruyama, T., T. Yasuda, K. Goda, and N. Mori, Unión Geofísica Mexicana (UGM) 2016. (Oral)	口頭発表
2016	国際学会	Hjörleifsdóttir V (UNAM), Ji C (UCSB), Iglesias A (UNAM), Cruz-Atienza V (UNAM), Singh SK (UNAM), Slip distribution of two recent large earthquakes in the Guerrero segment of the Mexican subduction zone, and their relation to previous earthquakes, silent slip events and seismic gaps, UGM, Puerto Vallarta, Jalisco, Nov 2016, Oral	口頭発表
2016	国際学会	Husker, A., L. Ferrari, C. Arango-Galván, F. Corbo-Camargo (UNAM), The Geological characteristics that allow for transient slip within the seismogenic zone, Reunión Anual de la Unión Geofísica Mexicana, Puerto Vallarta, México, 30 Oct. - 4 Nov., 2016, Poster.	ポスター発表
2016	国際学会	J. Tago (UNAM), L. Métivier (UGA), R. Brossier (UGA) and J. Virieux (UGA), "Resolution analysis for earthquake kinematics inversion", in 2016 Annual Reunion of the Mexican Geophysics Union, Puerto Vallarta, Jalisco, Mexico, Oct. 30 - Nov. 4 2016, Oral.	口頭発表
2016	国際学会	Genta Nakano (Graduate School of Informatics), El papel de la Psicología Social en la prevencion de desastres (Role of Social Psychology for disaster prevention), Dia Mundial: Concienciacion sobre Tsunamis (World Tsunami Awareness Day), Mexico, November 5. Oral Presentation.	口頭発表
2016	国際学会	Muramoto, T., Y. Ito(DPRI), D. Inazu (TUMSAT), S. Henrys, L. Wallace, S. Bannister (GNS Science), K. Mochizuki (U TOKYO), R. Hino, and S. Suzuki (TOHOKU U), 2016, Detection of Shallow Slow Slip events on the Northern Hikurangi Margin using Ocean Bottom Pressure Recorders, Poster-1, 2016 Taiwan-Japan Workshop on Crustal Dynamics, Tainan, Taiwan, 14-16 Nov.	ポスター発表
2016	国際学会	Ito, Y.(DPRI), M. Ikari (MARUM) , K. Ujiie (TSUKUBA U), and A. Kopf (MARUM), Velocity- and slip-dependent weakening on the Tohoku plate boundary fault: shallow coseismic slip facilitated by foreshock afterslip, AGU 2016, 2016, Dec. 13, Poster.	ポスター発表

2016	国際学会	Uemura, M., Y. Ito, K. Ohta, R. Hino, and M. Shinohara, 2016, A Trial for Detecting the Temporal Variation in Seismic Velocity Accompanied by a Slow Slip Event, Using Seismic Interferometry of Ambient Noise, T21C-2839, 2016 Fall meeting, AGU, San Francisco, Calif., 13 Dec.	ポスター発表
2016	国際学会	Ji, Y. (Kobe U) and S. Yoshioka (Kobe U.), Thermal regime, slab dehydration and seismicity distribution beneath the Hikurangi subduction zone based on 3D simulation, AGU FALL MEETING 2016, United States, Dec 13, Poster.	ポスター発表
2016	国際学会	Hjörleifsdóttir V (UNAM), Ji C (UCSB), Iglesias A (UNAM), Cruz-Atienza V (UNAM), Singh SK (UNAM), Slip Distribution of Two Recent Large Earthquakes in the Guerrero Segment of the Mexican Subduction Zone, and Their Relation to Previous Earthquakes, Silent Slip Events and Seismic Gaps, AGU, San Francisco, CA Dec 2016, Poster	ポスター発表
2016	国際学会	Ide, S., S. Yabe, and Y. Tanaka (U TOKYO), Tidal controls on earthquake size-frequency statistics, AGU Fall Meeting 2016, Dec. 16	口頭発表
2016	国際学会	Katakami, S., S. Ito, K. Ohta (DPRI), R. Hino, S. Suzuki (TOHOKU U), and M. Shinohara (U TOKYO), 2016 Micro low-frequency tremor near the Japan Trench before the Tohoku-Oki earthquake, S41C-06, 2016 Fall meeting, AGU, San Francisco, Calif., 15 Dec.	口頭発表
2016	国際学会	Ohta K., Y. Ito (DPRI), K. Ujiie (TSUKUBA U), A. Fagereng (Cardiff U), S. Katakami (DPRI) and T. Kinoshita (TSUKUBA U), Constraining the thickness of tremor source region on the basis of seismological and geological observations in southwest Japan, AGU Fall meeting, T11-5F, San Francisco, CA, USA, 2016.12.12	口頭発表
2016	国際学会	Flores K (UNAM), Hjörleifsdóttir V (UNAM), Iglesias A (UNAM), Singh SK (UNAM). Did the Long Duration, April 18, 2002 (Mw 6.7), Mexico Earthquake Break the Guerrero Gap? AGU, San Francisco, CA Dec 2016, Poster	ポスター発表
2016	国際学会	H.S. Sánchez-Reyes (UGA), J. Tago (UNAM), L. Métivier, V.M. Cruz-Atienza (UNAM), M. Contreras-Zazueta (UNAM) and J. Virieux (UGA), "An evolutive real-time source inversion based on a linear inverse formulation" in 2016 AGU Fall Meeting, San Francisco California, Dec. 12 -16 2016.	ポスター発表
2016	国際学会	Genta Nakano (Graduate School of Informatics) and Katsuya Yamori (DPRI), Tsunami evacuation drill at school of Zihuatanejo, Mexico: Resolving "double bind" situation, Recent Advances in Earthquake, Tsunami, and Volcano Monitoring, Hazard Evaluation, and Disaster Management in Latin America, Ecuador, March 14-16, Oral Presentation.	口頭発表
2016	国内学会	中野元太(情報学研究所)・矢守克也(DPRI)・伊藤喜宏(DPRI)・孫英英(四川大学災害復興管理學院)・李勇昕(DPRI), メキシコ・シフタネホでの学校における津波避難訓練-ダブルバインド状態の解消に向けて-,平成28年度京都大学防災研究所研究発表講演会, 2017年2月22日, 口頭発表.	口頭発表
2016	国内学会	伊藤喜宏、メキシコ沿岸部の巨大地震・津波災害の軽減に向けた総合的研究、平成28年度京都大学防災研究所研究発表講演会, 2017年2月22日, 口頭発表.	口頭発表
2016	国際学会	Victor M. Cruz-Atienza (UNAM), Mexico SATREPS project, Recent Advances in Earthquake, Tsunami, and Volcano Monitoring, Hazard Evaluation, and Disaster Management in Latin America, 2017. Mar. 14	口頭発表
2016	国際学会	Yoshihiro Ito (DPRI), Earthquake monitoring using ocean-bottom observations, Recent Advances in Earthquake, Tsunami, and Volcano Monitoring, Hazard Evaluation, and Disaster Management in Latin America, 2017. Mar. 14	口頭発表
2016	国際学会	Satoshi Ide(U TOKYO), Universality and diversity of slow earthquakes in world subduction zones, Recent Advances in Earthquake, Tsunami, and Volcano Monitoring, Hazard Evaluation, and Disaster Management in Latin America, 2017. Mar. 14	口頭発表
2016	国際学会	Vladimir Kostoglodov (UNAM), GPS studies of crustal deformation in Mexico (Subduction earthquakes, Slow slip events and Seismic cycle), Recent Advances in Earthquake, Tsunami, and Volcano Monitoring, Hazard Evaluation, and Disaster Management in Latin America, 2017. Mar. 15	口頭発表
2016	国際学会	Shunichi Koshimura(TOHOKU U), Overview, Recent Advances in Earthquake, Tsunami, and Volcano Monitoring, Hazard Evaluation, and Disaster Management in Latin America, 2017. Mar. 15	口頭発表
2016	国際学会	Tomás Sánchez (CENAPRED), Recent experiences in cultural promotion and education for disaster risk reduction in Mexico, Recent Advances in Earthquake, Tsunami, and Volcano Monitoring, Hazard Evaluation, and Disaster Management in Latin America, 2017. Mar. 16	口頭発表
2016	国際学会	Genta Nakano (DPRI), Tsunami evacuation drill at school of Zihuatanejo, Mexico: Resolving "double bind" situation, Recent Advances in Earthquake, Tsunami, and Volcano Monitoring, Hazard Evaluation, and Disaster Management in Latin America, 2017. Mar. 16	口頭発表
2017	国際学会	Ito, Y., S. Katakami, K. Ohta, M. Uemura, T. Muramoto, and E. S. M. Garcia (Kyoto U), Interaction between slow and fast slips in the Japan Trench: Prospect from near field ocean bottom seismic and geodetic observations, SSA 2017, (April 18, 2017, Denver, CO)	招待講演
2017	国際学会	Ito, Y. (Kyoto U), M. Ikari (MARUM), K. Ujiie (U. Tsukuba) and A. Kopf (MARUM), Slip-dependent weakening on shallow plate boundary fault in the Japan subduction zone: shallow coseismic slip facilitated by foreshock afterslip, EGU 2017, (April 25, 2017, Vienna, Wien)	口頭発表
2017	国際学会	Vlad Constantin Manea, Marina Manea, Luca Ferrari, María Teresa Orozco, Raúl Wong Valenzuela, Allen Leroy Husker, Vlad Kostoglodov and Constantin Ionescu, Cartel: A review of the geodynamic evolution of flat slab subduction in Mexico, Peru, and Chile, EGU General Assembly, Austria, 2017 Apr.	ポスター発表

2017	国際学会	Fukui, I., N. Mori, A. Prasetyo, H. Mase (2017) Numerical modeling of tsunami inundation using upscaled surface roughness parameterization, JpGU, Chiba	ポスター発表
2017	国際学会	佐藤 圭介・吉岡 祥一・青地 秀雄. 2016年鳥取県中部地震の動的断層破壊シミュレーション, JpGU-AGU Joint Meeting 2017, 千葉, 2017 May.	ポスター発表
2017	国際学会	田中 もも・吉岡 祥一. テクニックな変動から推定した東北地方太平洋沖地震前のプレート間の固着と非地震性すべりの時空間分布, JpGU-AGU Joint Meeting 2017, 千葉, 2017 May.	ポスター発表
2017	国際学会	Suenaga, N., S. Yoshioka and T. Matsumoto, 2-D thermal modeling along a non-volcanic region in southern Kyushu, Japan, JpGU-AGU Joint Meeting 2017, Chiba, 2017 May.	ポスター発表
2017	国際学会	Ji, Y. and S. Yoshioka, Thermal regime and slab dehydration in the subducted Juan de Fuca plate beneath the Cascadia subduction zone based on 3D numerical simulation, JpGU-AGU Joint Meeting 2017, Chiba, 2017 May.	ポスター発表
2017	国際学会	Sanchez, T. A., (CENAPRED) and Valdes C. M., (CENAPRED) Take benefit of SINAPROC capabilities to strengthen the SATREPS Project Mexico-Japan, Workshop on the collaborative project between Japan and Mexico: Hazard Assessment of Large Earthquakes and Tsunamis in the Mexican Pacific Coast for Disaster Mitigation, Kasugano International Forum in Nara, Japan, July 28th 2017.	ポスター発表
2017	国際学会	Guillermo González, Allen Husker, Cartel: Study of repeating events in the Jalisco subduction zone, Mexico, Modalidad: Presencial, Workshop on the collaborative project between Japan and Mexico: Hazard Assessment of Large Earthquakes and Tsunamis in the Mexican Pacific Coast for Disaster Mitigation, Nara, 2017 Jul.	口頭発表
2017	国際学会	Allen Husker, Xyoli Pérez-Campos, Luca Ferrari, Claudia Arrango, Jorge Castillo, Oral: The structure of the Guerrero Gap and the down-dip slow slip region, Modalidad: Presencial, Workshop on the collaborative project between Japan and Mexico: Hazard Assessment of Large Earthquakes and Tsunamis in the Mexican Pacific Coast for Disaster Mitigation, Nara, 2017 Jul.	口頭発表
2017	国際学会	M. Calò, A. Husker, A. Iglesias Mendoza, Cartel: Trans-dimensional inversions for detecting layered structures, and Enhanced Seismic Tomography for imaging 3D high-resolution models. Two methods for improving the knowledge of the Guerrero region, Workshop on the collaborative project between Japan and Mexico: Hazard Assessment of Large Earthquakes and Tsunamis in the Mexican Pacific Coast for Disaster Mitigation, Nara, 2017 Jul.	ポスター発表
2017	国際学会	Tanaka, M., S. Yoshioka and Y. Nishino, Spatiotemporal distribution of locking and aseismic slips prior to the 2011 Tohoku-oki earthquake, IAG-IASPEI 2017, Kobe, 2017 Aug.	ポスター発表
2017	国際学会	Suenaga, N., S. Yoshioka and T. Matsumoto, Two-dimensional thermal modeling associated with subduction of the Philippine Sea Plate beneath southern Kyushu, Japan, IAG-IASPEI 2017, Kobe, 2017 Aug.	口頭発表
2017	国際学会	Sato, K., S. Yoshioka and H. Aochi, Estimation of the dynamic reupture parameters for the 2016 Tottoriken-chubu earthquake, IAG-IASPEI 2017, Kobe, 2017 Aug.	ポスター発表
2017	国際学会	Allen Husker, Jorge Castillo, Xyoli Perez-Campos, William Frank, Cartel: Anisotropy in the subducted oceanic crust and the overlying continental crust coincides with slow slip phenomena in the flat portion of the Mexican subduction zone, IASPEI Assembly, 2017.	ポスター発表
2017	国際学会	E. Kazachkina, V. Kostoglodov, A. L. Husker, J. A. Santiago, N. Cotte, A. Walpersdorf, Cartel: o Complex interaction between thrust and strike-slip motion in the Mexican oblique subduction zone, IAG-IASPEI 2017, Joint Scientific Assembly, Kobe, 2017 Jul.	ポスター発表
2017	国際学会	Guillermo Gonzalez, Allen Husker, William Frank, Leticia Avila, Cartel: Study of repeating events in the alisco subduction zone, Mexico, IASPEI Assembly, Kobe, 2017 Jul.	ポスター発表
2017	国際学会	Jorge Real, Vladimir Kostoglodov, Allen Husker, Cartel: Analysis of ambient seismic noise levels for the SATREPS stations and their technical aspects, IASPEI Assembly, Kobe, 2017 Jul.	ポスター発表
2017	国際学会	J. Tago (UNAM), L. Metivier (UGA), R. Brossier (UGA), V.M. Cruz-Atienza (UNAM) and J. Virieux (UGA), "Resolution analysis for earthquake kinematics inversion" in 2017 IAG-IASPEI joint meeting, Kobe, Japan, July 30 - Aug. 4 2017.	口頭発表
2017	国際学会	H. Sánchez-Reyes (UGA), J. Tago (UNAM), V.M. Cruz-Atienza (UNAM), L. Metivier (UGA), M. Contreras-Zazueta (UNAM) and J. Virieux (UGA), "An evolutive quasi-real-time source inversion based on a linear inverse formulation" in 2017 IAG-IASPEI joint meeting, Kobe, Japan, July 30 - Aug. 4 2017.	ポスター発表
2017	国際学会	V.M. Cruz-Atienza (UNAM), J. Tago (UNAM), J.D. Sanabria-Gómez (UIS), E. Chaljub (UGA), V. Etienne (SA), J. Virieux (UGA) and L. Quintanar (UNAM), "Long Duration of Ground Motion in the Paradigmatic Valley of Mexico" in 2017 IAG-IASPEI joint meeting, Kobe, Japan, July 30 - Aug. 4 2017.	口頭発表
2017	国際学会	Genta Nakano (Kyoto University) & Katsuya Yamori (Kyoto University), Adapting the disaster knowledge for the local context-Practices of Tsunami disaster education in Zihuatanejo city, Mexico. Joint Scientific Assembly of the International Association of Geodesy and the International Association of Seismology and Physics of the Earth's Interior, 2017, Aug 4. Oral Presentation.	口頭発表
2017	国際学会	Ji, Y. and S. Yoshioka, Interplate thermal regime and slab dehydration at the source region of episodic tremor and slow slip events in the Cascadia subduction zone, Japan, 2017 Aug.	口頭発表
2017	国際学会	Hori, T., R. Nakata, H. Hino, T. Kuwatani, S. Yoshioka and M. Osada, Geodetic invention for spatial distribution of slow earthquakes under sparsity constraints, International Meeting on "High-Dimensional Data-Driven Science" (HD3-2017), Kyoto, 2017 Sep.	口頭発表

2017	国際学会	Tanaka, M. and S. Yoshioka, Spatiotemporal distribution of interplate locking and aseismic slip prior to the 2011 Tohoku-Oki earthquake, スロー地震合同研究会2017, Matsuyama, 2017 Sep.	ポスター発表
2017	国際学会	Sato, K., S. Yoshioka and H. Aochi, On spatial distribution of dynamic rupture parameters for the 2016 Tottoriken-chubu earthquake, スロー地震合同研究会2017, Matsuyama, 2017 Sep.	ポスター発表
2017	国際学会	Panning, M., S. Stähler, B. Bills, J. Castillo Castellanos, H. Huang, A. Husker, S. Kedar, R. Lorenz, W. T. Pike, N. Schmerr, V. Tsai, S. D. Vance, Cartel: Seismic signal and noise on Europa and how to use it, Division for Planetary Sciences Meeting, USA, 2017 Oct.	ポスター発表
2017	国際学会	J. Tago (UNAM), V.M. Cruz-Atienza (UNAM), C. Villafuerte-Urbina (UNAM) and H.S. Sánchez-Reyes (UGA) "Slow slip inversion in Guerrero using the adjoint method" in 2017 Annual Reunion of the Mexican Geophysics Union, Puerto Vallarta, Jalisco, Mexico, Oct. 22 - 27 2017.	口頭発表
2017	国際学会	Genta Nakano (Kyoto University) & Katsuya Yamori (Kyoto University), Comparative Analysis of Tsunami Evacuation Drill in Zihuatanejo- Resolving "Double bind" situation, Annual Meeting 2017 Mexican Geophysical Union, 2017, Oct 23, Oral Presentation.	口頭発表
2017	国際学会	Takuya Iwahori(Kyoto University) A Case Study on Disaster Education Programme with Mamten Seismic Observation Project, Annual Meeting 2017 Mexican Geophysical Union 2017, October 24, Oral Presentation	口頭発表
2017	国内学会	Yabe, S. (JAMSTEC), and S. Ide (UTokyo), 摩擦不均質モデルによる前震・余震生成 (The genesis of foreshocks and aftershocks in the frictionally heterogeneous fault model), 日本地震学会秋季大会, 2017 Oct. 26	口頭発表
2017	国内学会	吉岡祥一・田中もも, テクトニックな変動から推定した2011年東北地方太平洋沖地震前のプレートの固着状態と非地震性すべりの時空間分布, 東京大学大気海洋研究所共同利用研究会「地球環境と固体地球のかかわり」, 柏, 2017 Nov.	口頭発表
2017	国際学会	Ito, Y. (Kyoto U), Y. Kaneko, L. Wallace, S. Henrys (GNS Sci.), S. Webb (LDEO), T. Muramoto, K. Ohta (Kyoto U), K. Mochizuki (U Tokyo), S. Suzuki, M. Kido and R. Hino (Tohoku U), Seismic waves triggering slow slip event on the pressure gauge records in the Hikurangi subducting margin, AGU 2017, (December 11, 2017, New Orleans, USA)	口頭発表
2017	国際学会	Garcia, E. S. M. (DPRI), Y. Ito (DPRI), Small-scale Forearc Structure from Residual Bathymetry and Vertical Gravity Gradients at the Cocos-North America Subduction Zone offshore Mexico, AGU 2017, Dec 1.	口頭発表
2017	国際学会	Allen Husker, Guillermo Gonzalez, Luis A. Dominguez, Sara I. Franco-Sánchez, Ekaterina Kazachkina, Vladimir Kostoglodov, Is there physical evidence that the M8.2 8-Sep-17 earthquake triggered the M7.1 19-Sep-17 earthquake?, American Geophysical Union, Fall Meeting 2017	ポスター発表
2017	国際学会	Allen L Husker, Leticia Avila, Guillermo Gonzalez, William Frank, Vladimir Kostoglodov, Oral: What many years of tremor reveals about the Mexican Sweet Spot, AGU Fall Meeting, New Orleans, 2017 Dec.	口頭発表
2017	国際学会	A. Velasco, H. Gonzalez-Huizar, M. Karplus, A. Husker, O. Dena, X. Perez-Campos, M. Calò, C.M. Valdes, Cartel: Rapid Seismic Deployment for Capturing Aftershocks of the September 2017 Tehuantepec, Mexico (M=8.1) and Morelos-Puebla (M=7.1), Mexico Earthquakes, AGU FALL meeting, New Orleans, 2017 Dec.	ポスター発表
2017	国際学会	Mark P Panning, Simon C. Stähler, Bruce G Bills, Jorge Castillo, Hsin-Hua Huang, Allen L Husker, Sharon Kedar, Ralph D Lorenz, William T Pike, Nicholas C Schmerr, Victor C Tsai and Steven Vance, Seismic signal and noise on Europa and how to use it, AGU Fall Meeting, New Orleans, 2017 Dec.	ポスター発表
2017	国際学会	X. Pérez-Campos, R. W. Clayton, M. A. Rodríguez-Domínguez, R. Valenzuela, R. Husker, A. Iglesias and S. K. Singh, Cartel: A review of the complex geometry of Cocos slab under North America, Seismological Society of America 2017 Annual Meeting, USA, 2017.	ポスター発表
2017	国際学会	V.M. Cruz-Atienza (UNAM), J. Tago (UNAM), C. Villafuerte-Urbina (UNAM), E. Chaljub (UGA) and J.D. Sanabria-Gómez (UIS), "A physical model of the Mexico City seismic response after the damaging M7.1 earthquake of September 19, 2017" in 2017 AGU Fall Meeting, New Orleans, Louisiana, Dec. 11 - 15 2017.	口頭発表
2017	国際学会	Yabe, S. (JAMSTEC), and S. Ide (UTokyo), Various slip behaviors in the frictionally heterogeneous fault model, AGU, 2017 Dec. 14	ポスター発表
2017	国内学会	中野元太(京都大学)・杉山高志(京都大学)・岩堀卓弥(京都大学)・矢守克也(京都大学)・李勇昕(京都大学), メキシコ・シワタネホと黒潮町の中学校合同津波避難訓練—シワタネホに見る効果—, 平成29年度京都大学防災研究所研究発表講演会, 2018年2月20日, 口頭発表	口頭発表
2017	国内学会	岩堀卓弥(京都大学)中野元太(京都大学)・矢守克也(京都大学), 地震学に関する理科教育の日墨比較研究, 平成29年度京都大学防災研究所研究発表講演会, 2018年2月20日, 口頭発表.	口頭発表
2018	国内学会	Banay, Y. (Kobe U.), S. Yoshioka (Kobe U.) and Y. Ji (Kobe U.), 3D Rheology effects on postseismic viscoelastic surface displacement fields in subduction zones, 日本地球惑星科学連合2018年大会, 千葉, 2018/5/20	ポスター発表
2018	国内学会	秋山 峻寛 (Kobe U.)・吉岡 祥一 (Kobe U.)・田中 もも (Kobe U.), GNSSデータを用いた日本列島の歪速度場の時空間変化, 日本地球惑星科学連合2018年大会, 千葉, 2018/5/20	ポスター発表
2018	国内学会	Nakata, R. (JAMSTEC), H. Hino (ROIS), T. Kuwatani (JAMSTEC), M. Tanaka (Kobe U.), S. Yoshioka (Kobe U.), M. Okada (Tokyo U.) and T. Hori (JAMSTEC), Spatial distribution of long-term slow slip events beneath the Bungo Channel under sparsity constraints (II), 日本地球惑星科学連合2018年大会, 千葉, 2018/5/23	招待講演

2018	国内学会	Banay, Y. (Kobe U.), S. Yoshioka (Kobe U.), M. Tanaka (Kobe U.) and Y. Ji (Kobe U.), Postseismic displacement field associated with the 2011 Tohoku-oki earthquake by temperature dependent viscosity model, 日本地球惑星科学連合2018年大会, 千葉, 2018/5/23	ポスター発表
2018	国内学会	Victor Manuel Cruz Atienza, Rapid Tremor Migration and Pore-Pressure Waves in Subduction Zones, the 15th Videoconference of Mathematical and Computational Modeling, May 25, 2018	口頭発表
2018	国際学会	Fukui, N., A. Prasetyo and N. Mori (2018) Numerical modeling of tsunami inundation using subgrid scale urban roughness parameterization, The 8th International Symposium on Environmental Hydraulics, USA.	口頭発表
2018	国際学会	Yasuda, T., A. Prasetyo, V. Johnson and N. Mori (2018) Physical and Numerical Modelling of Tsunami Inundation in Coastal Urban Area, AOGS 13th Annual Meeting	口頭発表
2018	国際学会	Miyashita, T., T. Maruyama, K. Goda, T. Yasuda and N. Mori (2018) Effects of tsunami source variations and bathymetry amplification on probabilistic tsunami hazard assessment, The International Coastal Symposium (ICS2018), Busan	口頭発表
2018	国際学会	Nakata, R. (JAMSTEC), H. Hino (ROIS), T. Kuwatani (JAMSTEC), S. Yoshioka (Kobe U.), M. Okada (Tokyo U.) and T. Hori (JAMSTEC), Geodetic Data Inversion for Spatial Distribution of Long-term Slow Slip Events Beneath the Bungo Channel, Southwest Japan, Using Sparse Modelling, AOGS 15th Annual Meeting, Honolulu, Hawaii, 2018/6/6	口頭発表
2018	国際学会	Nakata, R. (JAMSTEC), H. Hino (ROIS), T. Kuwatani (JAMSTEC), S. Yoshioka (Kobe U.), M. Okada (Tokyo U.) and T. Hori (JAMSTEC), Discussion based on spatial distribution of long-term slow slip events beneath the Bungo Channel, International Joint Workshop on Slow Earthquakes 2018, 福岡, 2018/9/21-23	ポスター発表
2018	国際学会	Tanaka, M. (Kobe U.) and S. Yoshioka (Kobe U.), Spatiotemporal Distributions of Interplate Coupling and Aseismic Slips Prior to the 2011 Tohoku-Oki Earthquake Inferred From GNSS Data, 10th ACES International Workshop, 南あわじ, 2018/9/25	口頭発表
2018	国内学会	田中 もも (Kobe U.)・吉岡 祥一 (Kobe U.), 東北地方太平洋沖地震前 15 年間の地殻変動から推定したプレート間の固着・非地震性すべりの時空間分布, 日本地震学会2018年度秋季大会, 郡山, 2018/10/11	ポスター発表
2018	国内学会	長田 史應 (Osaka U.)・吉岡 祥一 (Kobe U.)・馬場 俊孝 (Tokushima U.), 東北地方太平洋域地震の隣接地域における想定海溝型巨大地震に伴う津波の数値シミュレーション, 日本地震学会2018年度秋季大会, 郡山, 2018/10/11	ポスター発表
2018	国際学会	Yoshioka, S. (Kobe U.), Three-dimensional thermal modeling associated with subduction of the Cocos plate beneath southern Mexico, and its relation to the occurrence of interplate seismic events, JST-JICA-UNAM Workshop for the Mid-term Evaluation, CDMX, México, 2018/11/5	口頭発表
2018	国際学会	Tanaka, M. (Kobe U.), S. Yoshioka (Kobe U.), Spatiotemporal locking state on the plate interface prior to the 2011 Tohoku-Oki earthquake inverted from GNSS data, AGU Fall Meeting 2018, Washington, D.C., 2018/12/11	ポスター発表
2018	国際学会	Ito, Y., S. Webb, Y. Kaneko, L. Wallace, and R. Hino (2018), Ground motion and its ocean bottom amplification in subduction zones, AGU 2018, (December 13, 2018, Washington D.C., USA)	ポスター発表
2018	国内学会	岩堀卓弥 (京都大学)・中野元太 (京都大学)・矢守克也 (京都大学), 地震学に関する理科教育の日墨比較研究, 平成30年度日本自然災害学会学術講演会, 2018年10月6日, 口頭発表.	口頭発表
2018	国際学会	Iwahori, T. Nakano, G. Yamori, K (2018), Comparative studies of Japanese and Mexican science education about seismology, RAUGM 2018, (28 Oct. - 2 Nov., 2018, Puerto Vallarta, México)	ポスター発表
2018	国際学会	Satoshi Ide, Seismic observation of slow earthquakes in Nankai, Cascadia, and Mexico, Reunión Anual 2018, UGM, Oct. 30, 2018	ポスター発表
2018	国内学会	岩堀卓弥 (京都大学)・中野元太 (京都大学)・矢守克也 (京都大学), メキシコでの地震・津波防災教育の実践 - 教育カリキュラムの日墨比較を通じたカルチュラル・チューニング - 平成30年度京都大学防災研究所研究発表講演会, 2019年2月19日, 口頭発表.	口頭発表
2018	国内学会	中野元太・杉山高志・岩堀卓弥・矢守克也・李勇昕, (2018), メキシコ・シワタネホと黒潮町の中学校合同津波避難訓練—シワタネホに見る効果—, 平成29年度 京都大学防災研究所研究発表講演会	口頭発表
2018	国際学会	井上 智裕 (京都大学理学研究科), Analysis of Ocean Bottom Pressure in Hikurangi subduction zone, スロー地震国際合同研究会, アクロス福岡, 2018年9月21-23日	ポスター発表
2018	国際学会	井上 智裕 (京都大学理学研究科), Detection of seafloor crustal deformation from ocean bottom pressure data using amplitude correction of non-tidal components, American Geophysical Union, Washington, D.C., 2018年12月10-14日	ポスター発表
2018	国際学会	Ito, Y (京都大学), S. Webb, Y. Kaneko, L. Wallace, and R. Hino (東北大学), Ground motion and its ocean bottom amplification in subduction zones, AGU 2018, (December 13, 2018, Washington D.C., USA)	ポスター発表
2019	国内学会	Ryoko Nakata (JAMSTEC, Japan), Hideitsu Hino (ISM, Japan), Tatsu Kuwatani (JAMSTEC, Japan), Takahiro Akiyama (Kobe Univ., Japan), Shoichi Yoshioka (Kobe Univ., Japan), Masato Okada (Tokyo Univ.), Takane Hori (JAMSTEC, Japan), Spatial distribution of slow slip events off the Boso peninsula from 1996 to 2018 under sparsity constraints, 日本地球惑星科学連合2019年大会, Chiba, Japan, 2019/5	ポスター発表
2019	国内学会	Nobuaki Suenaga (Kobe Univ., Japan), Shoichi Yoshioka (Kobe Univ., Japan), Yinfeng Ji, Three-dimensional thermal modeling associated with subduction of the Philippine Sea plate at the Ryukyu Trench, and its relation to the occurrence of interplate seismic events, 日本地球惑星科学連合2019年大会, Chiba, Japan, 2019/5	ポスター発表

2019	国内学会	末永 伸明(神戸大), 吉岡 祥一(神戸大), 季 穎鋒(中国科学院), 琉球海溝におけるフィリピン海プレートの沈み込みに伴う3次元温度構造モデリング, 日本地震学会2019年度秋季大会, 京都, 2019/9	口頭発表
2019	国際学会	Ryoko Nakata (JAMSTEC, Japan), Hideitsu Hino (ISM, Japan), Tatsu Kuwatani (JAMSTEC, Japan), Takahiro Akiyama (Kobe Univ., Japan), Shoichi Yoshioka (Kobe Univ., Japan), Masato Okada (Tokyo Univ.), Takane Hori (JAMSTEC, Japan), Spatial distribution of long-term slow slip event from 2018 to 2019 beneath the Bungo Channel under sparsity constraints, International Joint Workshop on Slow Earthquakes 2019, Sendai, Japan, 2019/9	ポスター発表
2019	国内学会	中野元太・矢守克也・宮下卓也・ウラルイサ・マセリック・越村俊一, 津波浸水シミュレーションを活用した多様なシナリオの避難訓練—メキシコ・シワタネホの小学校での実践—, 令和元年度京都大学防災研究所研究発表講演会, 京都大学防災研究所, 2020年2月21日	口頭発表
2019	国際学会	Nakano Genta. & Yamori Katsuya., Fusion of Evacuation drill with tsunami inundation simulation – Development and effect of the tsunami educational material, Annual Meeting 2019 Mexican Geophysical Union, Puerto Vallarta, Mexico. 27 October – 1 November, 2019,	口頭発表
2019	国際学会	Iwahori Takuya, Nakano Genta & Yamori Katsuya, Practice of Disaster Education in Mexico. «Cultural Tuning» Based on Comparative Study of Public Educational Curriculum Between Japan and Mexico, The 10th conference of the international society for Integrated Disaster Risk Management (IDRiM2019), Nice, France, 16 –18 October 2019	口頭発表
2019	国際学会	Nakano Genta , James D. Goltz, Hyejeong Park, Yamori Katsuya , Comparative Analyses of Human Behavioral Response to the Nepal Earthquake of 2015 and the Mexico Earthquake of 2017, The 10th conference of the international society for Integrated Disaster Risk Management (IDRiM2019), Nice, France, 16 –18 October 2019	口頭発表
2019	国内学会	中野元太・矢守克也, 防災教育の支援者と被支援者の文化差に関する基礎的考察, 第38回日本自然災害学会学術講演会, 2019年9月21日.	口頭発表
2019	国内学会	岩堀卓弥・中野元太・矢守克也, メキシコでの地震・津波防災教育の実践Ⅱ—日墨の地震リスク認知の盲点を相互補完するサイエンスコミュニケーション—, 第38回日本自然災害学会学術講演会, 2019年9月21日	口頭発表
2019	国際学会	Miyashita, T., N. Mori and K. Goda (2019) Uncertainty Quantification of Tsunami Height for Future Earthquakes in West Japan. ICASP2019, Korea, 8p.	口頭発表
2019	国際学会	N. Fukui, N. Mori (2019) Numerical Modeling of Tsunami Inundation in Urban Area using Sub-Grid Scale Drag Force Model, AOGS2019, Singapore.	口頭発表
2019	国内学会	宮下卓也, 森 信人 (2019) 地形による津波増幅率を用いた沿岸域の最大津波振幅の推定, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), 75(2), 1367-1372.	口頭発表
2019	国内学会	福井信気, 森 信人 (2019) 市街地を対象とした津波遡上計算のための SGS 建物抗力モデルの開発, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), 75(2), 1391-1396.	口頭発表
2019	国際学会	Garcia, E. S. M., Y. Ito, S. C. Webb, and T. Inoue, Time Scales of Variations in Seafloor Pressure Signals at Subduction Zone Margins from Simulations and In Situ Data, American Geophysical Union Fall Meeting 2019, S33D-0608.	ポスター発表
2019	国際学会	Ito, Y., , S. Webb, Y. Kaneko, L. Wallace, and R. Hino, Millihertz Ground Motion at the Seafloor Excited by Large Regional Earthquakes, SSA 2019, (April 24, 2019, Seattle, USA)	口頭発表
2019	国際学会	Ito, Y., , S. Webb, Y. Kaneko, L. Wallace, and R. Hino (2019), Millihertz ground motion at the seafloor excited by large regional earthquakes , International Conference in Commemoration of 20th Anniversary of the 1999 Chi-Chi Earthquake (September 17, 2019, Taipei, Taiwan)	招待講演
2019	国際学会	Ito, Y., , M. Uemura, S. Webb, K. Mochizuki, and S. Henrys (2019), Ambient noise field and temporal changes in seismic interferograms at sea bottom inferred from ocean-bottom seismic and pressure arrays, AGU 2019, S21A-04 (December 10, 2019, San Francisco, USA)	口頭発表
2019	国内学会	Nakano, G., Yamori, K., Miyashita, T., Urra, L., Mas, E. , Koshimura, S. (2020). Evacuation drills under different scenarios based on tsunami inundation simulation—Practices of primary school in Zihuatanejo, Mexico. DPRI Annual Meeting 2020, February 20–21, 2020, Kyoto, Japan	
2019	国際学会	Nakano, G., Yamori, K., Miyashita, T., Urra, L., Mas, E. , Koshimura, S. (2019). Fusion of evacuation drill with tsunami inundation simulation—Development and effect of the tsunami educational material. 2019 Annual Meeting of the Union Geofisica Mexicana, Puerto Vallarta, Mexico. October 27 – November 1, 2019	
2020	国際学会	Miyashita, T. and N. Mori (2020) Simplification of maximum tsunami heights estimation in PTHA, Virtual International Conference on Coastal Engineering.	口頭発表
2020	国際学会	Garcia, E. S. M. and Y. Ito, 2020, Incoming Plate Faulting at the Outer Slope of the Middle America Trench offshore Mexico, Japan Geophysical Union – American Geophysical Union Joint Meeting 2020, SCG62-P01	ポスター発表
2020	国内学会	中野元太(京都大学), 国際的な防災教育支援の効果定着に関する課題整理, 日本災害情報学会第22回学会大会, オンライン開催, 2020年11月28日・29日.	口頭発表
2020	国際学会	Nakano, G.(Kyoto Univ.), Yamori, K.(Kyoto Univ), Triggering the tsunami evacuation of tourists with the concept of “Nudge”, IDRiM Virtual Workshop for Interactive Discussions between Senior and Early-Career Scientists, Online, 2020/09/24.	口頭発表
2020	国内	末永 伸明・吉岡 祥一, 琉球海溝周辺におけるフィリピン海プレートの沈み込みに伴う3次元熱対流数値シミュレーション, 新学術領域研究「スロー地震学」C01班オンライン研究集会, オンライン, 2020/4/14	口頭発表

2020	国内	吉岡祥一・末永伸明・阿部大毅, 最近の研究成果と今年度の取り組みについて, 新学術領域研究「スロー地震学」C01班オンライン研究集会, オンライン, 2020/4/14	口頭発表
2020	国内	Nobuaki Suenaga, Shoichi Yoshioka, 3-D thermal modeling of generation mechanisms for short-term slowslip events and low-frequency earthquakes along the Ryukyu trench, JpGU-AGU Joint Meeting 2020, オンライン, 2020/7/9-16	ポスター発表
2020	国内	阿部 大毅・吉岡 祥一, 2011年東北地方太平洋沖地震前15年間のプレート間カップリングの時空間分布の推定, JpGU-AGU Joint Meeting 2020, オンライン, 2020/7/12	口頭発表
2020	国内	吉岡 祥一・末永 伸明・阿部 大毅, 最近の研究成果について, Slow Earthquakes WS 2020 Virtual, オンライン, 2020/9/17	口頭発表
2020	国内	吉岡 祥一, 東北地方太平洋沖地震後の余効すべりと固着の分布～温度に依存する粘性構造モデルを用いて～, 神戸大学都市安全研究センター第1回 震災復興・災害科学シンポジウム 東日本大震災から10年 ～わかってきたこと、今伝えたいこと～, オンライン, 2021/1/9	口頭発表
2020	国内	阿部 大毅・吉岡 祥一, 2011年東北地方太平洋沖地震前14年間のプレート間カップリングの時空間分布の推定, 新学術領域研究「スロー地震学」C01班オンライン研究集会, オンライン, 2021/3/31	口頭発表

招待講演	4 件
口頭発表	88 件
ポスター発表	68 件

VI. 成果発表等

(3) 特許出願【研究開始～現在の全期間】(公開)

①国内出願

	出願番号	出願日	発明の名称	出願人	知的財産権の種類、出願国等	相手国側研究メンバーの共同発明者への参加の有無	登録番号 (未登録は空欄)	登録日 (未登録は空欄)	出願特許の状況	関連する論文のDOI	発明者	発明者所属機関	関連する外国出願※
No.1													
No.2													
No.3													

国内特許出願数 0 件
 公開すべきでない特許出願数 0 件

②外国出願

	出願番号	出願日	発明の名称	出願人	知的財産権の種類、出願国等	相手国側研究メンバーの共同発明者への参加の有無	登録番号 (未登録は空欄)	登録日 (未登録は空欄)	出願特許の状況	関連する論文のDOI	発明者	発明者所属機関	関連する国内出願※
No.1													
No.2													
No.3													

外国特許出願数 0 件
 公開すべきでない特許出願数 0 件

VI. 成果発表等

(4) 受賞等【研究開始～現在の全期間】(公開)

①受賞

年度	受賞日	賞の名称	業績名等 (「〇〇の開発」など)	受賞者	主催団体	プロジェクトとの関係 (選択)	特記事項
2016	2016/5/31	学生優秀発表賞	日本海溝における単独観測 点法を用いた低周波微動の 検出	片上智史	日本地球惑星 科学連合	3.一部当課題研究の成果 が含まれる	
2017	2017/11/5	感謝状(Reconocimiento)	地震と津波に関する研究と防災 への貢献、そしてシワタネホの 人々の命を守ることにつながる 支援に感謝する	伊藤喜宏 中野元太 岩堀卓弥 杉山高志 上坂崇人	シワタネホメ ディア協会 (Asociación de Periodistas de Zihuatanejo)	1.当課題研究の成果である	
2017	2017/12/5	Nature's 10 Ten people who mattered this year	2017年9月19日M7.1メキシコ 中部地震の研究に対して	VICTOR CRUZ- ATIENZA	Nature	3.一部当課題研究の成果 が含まれる	https://www.nature.com/immersive/d41586-017-07763-y/index.html
2017	2018/2/21	優秀発表賞	メキシコ・シワタネホと黒潮町 の中学校合同津波避難訓練 —シワタネホに見る効果—	中野元太	京都大学防災 研究所研究発 表講演会	1.当課題研究の成果である	
2020	2021/2/17	JICA理事賞	防災セミナー「COVID-19禍 における学校や家庭におけ る子供たちへの心のケア」の 実施	JICAメキ シコ事務 所	JICAメキシコ事 務所、メキシコ 連邦市民保護 調整機関	3.一部当課題研究の成果 が含まれる	本プロジェクトより運営費と講師 謝金を支出、C2メンバーと業務調 整員が実施を支援

5件

②マスコミ(新聞・TV等)報道

年度	掲載日	掲載媒体名	タイトル/見出し等	掲載面	プロジェクトとの関係 (選択)	特記事項
2016	2016/4/18	朝日放送			3.一部当課題研究の成果 が含まれる	
2016	2016/6/24	CONACYT	Colaboran México y Japón en investigación para prevenir desastres	インターネット記事	その他	プロジェクトの紹介記事 http://www.conacytprensa.mx/index.php/ciencia/la-tierra/7860-investigacion-para-la-prevencion-de-desastres-entre-mexico-y-japon
2016	2016/6/27	Sexenio	México y Japón colaboran contra terremotos	インターネット記事	その他	プロジェクトの紹介記事 http://www.sexenio.com.mx/articulo.php?id=77478
2016	2016/6/28	EXCELSIOR	Estudian México y Japón actividad sísmica en Guerrero	インターネット記事	その他	プロジェクトの紹介記事 http://www.excelsior.com.mx/nacional/2016/06/28/1101638
2016	2016/7/14	Despertar de la Costa	Estudian japoneses vulnerabilidad de Zihuatanejo ante sismos	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	防災教育グループの現場訪問 http://www.despertardelacosta.info/news/estudian-japoneses-vulnerabilidad-de-zihuatanejo-ante-sismos/
2016	2016/9/6	Proceso	UNAM, Cenapred y agencia japonesa trabajan en mapa de riesgo sísmico y mitigación de tsunamis	インターネット記事	その他	プロジェクトキックオフ http://www.proceso.com.mx/453910/unam-cenapred-agencia-japonesa-trabajan-en-mapa-riesgo-sismico-mitigacion-tsunamis
2016	2016/9/6	Notimex	Intercambian México y Japón experiencias en materia sí smica	インターネット記事	その他	プロジェクトキックオフ
2016	2016/9/6	Terra	En breve, norma para prevenir riesgos por tsunamis en México	インターネット記事	その他	プロジェクトキックオフ http://noticias.terra.com.mx/mexico/en-breve-norma-para-prevenir-riesgos-por-tsunamis-en-mexico,a4d945380fb893cf7ac2eda727d6a1a81r1czvj0.html
2016	2016/9/6	Uno Más Uno	Intercambian México y Japón experiencias en materia sí smica	インターネット記事	その他	プロジェクトキックオフ
2016	2016/9/6-7	Grupo Radio Centro	Tsunamis, riesgo real para M éxico	ラジオ放送	その他	プロジェクトキックオフ
2016	2016/9/7	Radio UNAM	UNAM y Universidad de Kioto ponen en marcha proyecto de seguridad ante terremotos	ラジオ放送	その他	プロジェクトキックオフ

2016	2016/9/7	Digitalpost	Una forma para entender los sismos	インターネット記事	その他	プロジェクトキックオフ http://digitalpost.mx/universidades/una-forma-para-entender-los-sismos/
2016	2016/9/7	Crónica	Lanzan proyecto para evaluar arribo de tsunamis a las costas mexicanas	インターネット記事	その他	プロジェクトキックオフ http://www.cronica.com.mx/notas/2016/982726.html
2016	2016/9/7	La Jornada	México y Japón trabaja en mapas de riesgos sísmicos y mitigación de daños	社会面(36頁)	その他	プロジェクトキックオフ
2016	2016/9/7	El Economista	México y Japón estudiarán sismos y tsunamis	文化面(49頁)	その他	プロジェクトキックオフ
2016	2016/9/12	El Universal	En marcha, proyecto México-Japón para el estudio de los sismos	文化面(1-10頁)	その他	プロジェクトキックオフ
2016	2016/9/22	GUARATIN Guerrero	Analizan expertos japoneses movimiento de placas tectónicas en Guerrero	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	市役所における避難訓練実施 https://guerrero.quadratin.com.mx/analizan-expertos-japoneses-movimiento-placas-tectonicas-guerrero/
2016	2016/9/23	abc de Zihuatanejo	Recomienda científico japonés 2 tutas de evacuación en el palacio municipal	総合面(3頁)	1.当課題研究の成果である	市役所における避難訓練実施
2016	2016/10/4	Quadratin Guerrero (メキシコ・ゲレロ州地元紙)	“Capacitan a PC de Zihuatanejo para enfrentar terremotos y tsunamis (地震と津波に立ち向かうために防災局を強化する)”		1.当課題研究の成果である	
2016	2016/10/6	abc de Zihuatanejo	Estudiante de Tokio realiza platicas en escuelas para prevenir terremotos y tsunamis	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	防災教育グループの活動成果 http://abodezihuatanejo.com/estudiante-tokio-realiza-platicas-escuelas-prevenir-terremotos-tsunamis/
2016	2016/10/17	Despertar de la Costa (メキシコ・ゲレロ州地元紙)	“Zihuatanejo debe estar preparado para un tsunami, advierte experto japonés (シワタネホは津波に備えよ 日本人専門家の警鐘)”		1.当課題研究の成果である	
2016	2016/11/4	CENAPRED blog	Sin máquina del tiempo ante el peligro de sismos	インターネット記事	その他	『世界津波の日』セミナー http://www.gob.mx/cenapred/articulos/sin-maquina-del-tiempo-ante-el-peligro-de-sismos?idiom=es
2016	2016/11/4	CENAPRED blog	CENAPRED: resultado de las alianzas entre México y Japón en Protección Civil	インターネット記事	その他	『世界津波の日』セミナー http://www.gob.mx/cenapred/articulos/cenapred-resultado-de-las-alianzas-entre-mexico-y-japon-en-proteccion-civil?idiom=es
2016	2016/11/21	神戸新聞	神戸大学コラム 安心の素、最新知識で津波被害軽減を	社会・特集	3.一部当課題研究の成果が含まれる	
2016	2016/12/20	京都新聞	「地震予知可能性ある」京都・福知山、美河小で特別授業	地域ニュース	3.一部当課題研究の成果が含まれる	
2016	2017/1/2	Conversus TV	Tsunamis	TV報道/ビデオ	その他	『世界津波の日』セミナーでの伊藤喜宏・京都大学准教授のインタビュー報道 https://www.youtube.com/watch?v=JrIGqONJfY&feature=youtu.be
2017	2017/1/14	abc de Zihuatanejo	Plaza Kioto “Torii”	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	京都/シワタネホの交流について述べた記事にプロジェクトについても記載 http://abodezihuatanejo.com/plaza-kioto-torii/
2016	2017/1/15	毎日新聞	”受け継がれるもの 阪神・淡路大震災22年”		3.一部当課題研究の成果が含まれる	
2016		You Tube	www.youtube.com/watch?v=JrIGqONJfY&feature=youtu.be		3.一部当課題研究の成果が含まれる	
2016	2017/1/27	El Universal	Posible	la llegada de tsunamis a costas del país	その他	
2016	2017/2/16	Gaceta UNAM	El riesgo de tsunamis en México	education	その他	

2017	2017/4/5	UNAM DGCS	CON NOVEDOSA INSTRUMENTACIÓN, ESTUDIA LA UNAM PELIGRO ASOCIADO A GRANDES TERREMOTOS Y TSUNAMIS	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	プロジェクトの紹介記事 http://www.dgcs.unam.mx/boletin/bdolein/2017_236.html
2017	2017/4/5	Academia Mexicana de Ciencias	MÉXICO Y JAPÓN UNIDOS PARA LA DETECCIÓN TEMPRANA DE TERREMOTOS Y TSUNAMIS EN EL PACÍFICO MEXICANO	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	プロジェクトの紹介記事 http://www.comunicacion.amc.edu.mx/comunicados/mexico-y-japon-unidos-para-la-deteccion-temprana-de-terremotos-y-tsunamis-en-el-pacifico-mexicano
2017	2017/7/3	20minutos.com.mx	Protección Civil y Universidad de Japón buscan prevenir tsunamis en Guerrero	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	http://www.20minutos.com.mx/noticia/239799/0/proteccion-civil-y-universidad-de-japon-buscan-prevenir-tsunamis-en-guerrero/
2017	2017/7/3	Digital Guerrero	PC Participa en Actividades de Prevención de Sismos y Tsunamis en Condonación con Investigadores de Japón	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	http://www.digitalguerrero.com.mx/instante/pc-participa-en-actividades-de-prevencion-de-sismos-y-tsunamis-en-condonacion-con-investigadores-de-japon/
2017	2017/7/3	Infórmate	Protección Civil y Universidad de Japón buscan prevenir tsunamis en Guerrero	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	http://informate.com.mx/informacion-general/proteccion-civil-y-universidad-de-japon-buscan-prevenir-tsunamis-en-guerrero.html
2017	2017/7/3	Novedades Acapulco	Científicos japoneses dan seguimiento a investigación sobre tsunami	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	http://www.novedadesacapulco.com.mx/guerrero/cientificos-japoneses-dan-seguimiento-a-investigacion-sobre-tsunami
2017	2014/7/4	abc de Zihuatanejo	En teoría esperan el gran sismo y tsunami	地方紙・一面 (+総合面)	3.一部当課題研究の成果が含まれる	
2017	2014/7/4	El Sol de Acapulco	Japoneses imparten curso de mitigación de deastres a personal de PC en Zihua	地方紙・地域面 (8頁)	3.一部当課題研究の成果が含まれる	
2017	2014/7/4	La Voz de Zihuatanejo	Expertos japoneses continúan estudios del fondo marino	地方紙・一面 (+総合面)	3.一部当課題研究の成果が含まれる	
2017	2014/7/4	Novedades Acapulco	Japoneses imparten curso de mitigación de deastres a Protección Civil	地方紙・地域面 (6頁)	3.一部当課題研究の成果が含まれる	
2017	2014/7/12	abc de Zihuatanejo	Participan en simulacro de tsunami 400 alumnos de secundaria	地方紙・政治面 (8頁)	1.当課題研究の成果である	シワタネホでの合同避難訓練
2017	2014/7/12	El Sol de Acapulco	Realizan bomberos y alumnos de secundaria simulacro de tsunami en Zihuatanejo	地方紙	1.当課題研究の成果である	シワタネホでの合同避難訓練
2017	2014/7/12	El Sur	Participan alumnos de secundaria en simulacro de tsunami en Zihuatanejo; lo organizan investigadores japoneses	地方紙・教育面 (17頁)	1.当課題研究の成果である	シワタネホでの合同避難訓練
2017	2017/8/1	CBC放送	海からつりあげているのは	イッポウ	3.一部当課題研究の成果が含まれる	
2017	2017/8/21	Notimex	Especialistas de México y Japón estudian zona sísmica en Zihuatanejo	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	プロジェクトの紹介記事 http://www.notimex.gob.mx/ntxn/otaLibre/399227
2017	2017/8/21	Plus Político	Estudian zona sísmica en Zihuatanejo	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	プロジェクトの紹介記事 http://www.pulsopolitico.com.mx/2017/08/sismica1330699/
2017	2017/8/21	20minutos.com.mx	Especialistas de México y Japón estudian zona sísmica en Zihuatanejo	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	プロジェクトの紹介記事 http://www.20minutos.com.mx/noticia/258653/0/especialistas-de-mexico-y-japon-estudian-zona-sismica-en-zihuatanejo/

2017	2017/8/21	Journalmex	PROYECTO MÉXICO-JAPÓN PARA MITIGAR EL RIESGO POR TERREMOTOS Y TSUNAMIS, EN ZIHUATANEJO	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	プロジェクトの紹介記事、奈良でのWSについての記載あり http://journalmex.com.mx/proyecto-mexico-japon-para-mitigar-el-riesgo-por-terremotos-y-tsunamis-en-zihuatanejo/
2017	2017/8/21	Academia Mexicana de Ciencias	Zihuatanejo, la ciudad piloto en proyecto México-Japón que busca mitigar el riesgo por terremotos y tsunamis	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	プロジェクトの紹介記事 http://www.comunicacion.amc.edu.mx/comunicados/zihuatanejo-la-ciudad-piloto-en-proyecto-mexico-japon-que-busca-mitigar-el-riesgo-por-terremotos-y-tsunamis
2017	2017/8/22	La Crónica de Hoy	Se unen México y Japón para prevenir daños por sismos en la costa de Guerrero	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	プロジェクトの紹介記事 http://www.cronica.com.mx/notas/2017/1039576.html
2017	2017/9/8	UNAM DGCS	LLAMAN EXPERTOS DE LA UNAM A ESTAR ALERTAS ANTE POSIBLES RÉPLICAS DEL SISMO DE AYER	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	9月7日の地震について記者会見(プロジェクトについても言及) http://www.dgcs.unam.mx/boletin/bdboletin/2017.583.html
2017	2017/9/25	Noticieros Televisa	Experto explica los riesgos de los sismos y la cultura de prevención	インターネット記事、電話インタビュー	その他	9月19日の地震を受けて(プロジェクトについても言及) http://noticieros.televisa.com/ultimas-noticias/cdmx/2017-09-25/experto-explica-riesgos-sismos-y-cultura-prevencion/
2017	2017/9/25	TV Milenio	Con Puig a las Diez	TVインタビュー	その他	9月19日の地震を受けて(プロジェクトについても言及) http://tv.milenio.com/con_puig_a_las_diez/milenio-noticias-con_puig_a_las_diez-25_septiembre_2017_3_1037326266.html
2017	2017/9/29	TV Milenio	Entrevista a Víctor Manuel Cruz-Atienza, Sismólogo del Instituto de Geofísica de la UNAM	TVインタビュー	その他	9月19日の地震を受けて(プロジェクトについても言及) http://tv.milenio.com/en_15/en_15-victor_manuel_cruz-atienza-sismologo-geologia-unam-carlos_puig-milenio-noticias_3_1039126171.html
2017	2017/10/2	New York times	Scientists in Mexico Scramble to Deploy Seismic Sensors	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	プロジェクトの紹介記事 https://www.nytimes.com/2017/10/02/science/mexico-earthquakes-prediction.html
2017	2017/10/2	El Universal	México y Japón investigan probable gran sismo en la brecha de Guerrero	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	プロジェクトの紹介記事 http://www.eluniversal.com.mx/ciencia-y-salud/ciencia/mexico-y-japon-investigacion-probable-gran-sismo-en-la-brecha-de-guerrero
2017	2017/10/2	Noticias al Momento	iii INVESTIGAN ENORME SISMO EN GUERRERO iii	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	プロジェクトの紹介記事 https://www.youtube.com/watch?v=ntbaUcZbNRA
2017	2017/10/3	La Tribuna	México y Japón examinan posible gran sismo en Guerrero	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	プロジェクトの紹介記事 http://www.latribuna.hn/2017/10/03/mexico-japon-examinan-posible-gran-sismo-guerrero/
2017	2017/10/3	Terevista.News	Investigan brecha de Guerrero, temen gran sismo	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	プロジェクトの紹介記事 http://noticieros.televisa.com/historia/nacional/2017-10-03/investigacion-brecha-guerrero-temen-gran-sismo/

2017	2017/10/4	Politifobia	Científicos de México y Japón alertan de un "gran terremoto" en Guerrero	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	プロジェクトの紹介記事 http://politifobia.com/2017/10/04/cientificos-de-mexico-y-japon-alertan-de-un-gran-terremoto-en-guerrero/
2017	2017/10/6	La Jornada	Estudiarán México y Japón método para saber si habrá un gran sismo en Guerrero	インターネット記事	3.一部当課題研究の成果が含まれる	プロジェクトの紹介記事 http://www.jornada.unam.mx/ultimas/2017/10/06/estudiaran-mexico-y-japon-metodo-para-saber-si-habra-un-gran-sismo-en-guerrero-2549.html
2017	2017/11/1	Science	Underwater network hunts for mysterious slow quakes	News	1.当課題研究の成果である	トップ紙にプロジェクトが紹介された http://www.sciencemag.org/news/2017/11/underwater-network-hunts-mysterious-slow-quakes
2017	2017/11/6	Nuestro Vision	Realizan acciones de prevención de tsunamis en Zihuatanejo	TV報道	1.当課題研究の成果である	シワタネホでの世界津波の日イベント http://nuestravision.com.mx/index.php?option=com_videoflow&task=play&id=69051
2017	2017/11/6	20 minutos	Investigadores de Japón y Chile participan en seminario sobre Tsunamis	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	シワタネホでの世界津波の日イベント http://www.20minutos.com.mx/noticia/294184/0/investigadores-de-japon-y-chile-participan-en-seminario-sobre-tsunamis/
2017	2017/11/7	El Sur	La prevención ante sismos y tsunamis atañe a autoridades y sociedad, dice Cenapred	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	シワタネホでの世界津波の日イベント http://suracapulco.mx/5/la-prevencion-ante-sismos-y-tsunamis-atañe-a-autoridades-y-sociedad-dice-cenapred/
2017	2017/11/7	La Jornada Guerrero	El mar se salió en 1955, testimonian nativos de Azueta	インターネット記事	その他	シワタネホでの世界津波の日イベントについても言及
2017	2017/11/8	El Sol de Acapulco	Se llevan a cabo actividades de prevención de sismo y tsunamis en Ixtapa-Zihuatanejo	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	シワタネホでの世界津波の日イベント https://www.elsoldeacapulco.com.mx/estado/se-llevan-a-cabo-actividades-de-prevencion-de-sismo-y-tsunamis-en-ixtapa-zihuatanejo
2017	2017/11/9	Digital Guerrero	Conmemoran en Zihuatanejo el Día Internacional de la Concienciación de Tsunamis	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	シワタネホでの世界津波の日イベント http://www.digitalguerrero.com.mx/principales/conmemoran-en-zihuatanejo-el-dia-internacional-de-la-concienciacion-de-tsunamis/
2017	2017/11/12	La Jornada	Colocan red sismo-geodésica en costas de Guerrero	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	http://www.jornada.unam.mx/ultimas/2017/11/12/colocan-red-sismo-geodesica-en-costas-de-guerrero-6891.html
2017	2017/11/12	Proceso	La UNAM instala red geodésica en el Pacífico para medir potencial sísmico de brecha de Guerrero	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	https://www.google.com.mx/amp/www.proceso.com.mx/510780/la-unam-instala-red-geodesica-en-pacifico-medir-potencial-sismico-brecha-guerrero/amp
2017	2017/11/12	UNAM DGCS	INSTALA LA UNAM RED INSTRUMENTAL EN EL FONDO DEL PACÍFICO PARA MEDIR POTENCIAL SÍSMICO DE BRECHA DE GUERRERO	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	http://www.dgcs.unam.mx/boletin/bdolein/2017_752.html
2017	2017/11/13	La Jornada	Instalan científicos mexicanos y japoneses red sismogeodésica en costas de Guerrero	政治面(9頁)	1.当課題研究の成果である	

2017	2017/11/13	Gaceta Digital UNAM	Instalarán red sismo-geodésica en el fondo del Pacífico	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	http://www.gaceta.unam.mx/20171113/instalaran-red-sismo-geodesica-en-el-fondo-del-pacifico/
2017	2017/11/13	W Radio	Instalan medidor tectónico en Pacífico mexicano para analizar posibles sismos	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	http://www.wradio.com.co/noticias/tecnologia/instalan-medidor-tectonico-en-pacifico-mexicano-para-analizar-posibles-sismos/20171113/nota/3636114.aspx?ssm=whatsapp
2017	2017/11/14	El Universal	Instalan red sismo-geodésica en la "Brecha de Guerrero"	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	http://www.eluniversal.com.mx/ciencia-y-salud/ciencia/instalan-red-sismo-geodesica-en-la-brecha-de-guerrero
2017	2017/12/19	Forbes	El emprendimiento que nació de los sismos		1.当課題研究の成果である	https://www.forbes.com.mx/s19-emprendimiento-que-nacio-de-sismos/
2017	2017/12/23	高知新聞	津波逃れ50年後も無事で黒潮町の佐賀中生 タワーに自分宛て手紙	地域ニュース	1.当課題研究の成果である	
2017	2017/12/23	読売新聞	50年後も黒潮の防災願い 佐賀中生徒らタイムカプセル		1.当課題研究の成果である	
2017	2017/12/16	abc de Zihuatanejo	En Japón, guardan capsula del tiempo con mensaje de estudiantes y periodistas de Zihuatanejo		1.当課題研究の成果である	http://abcdezihuatanejo.com/en-japon-guardan-capsula-del-tiempo-con-mensaje-de-estudiantes-y-periodistas-de-zihuatanejo-guerrero/
2017	2017/12/27	abc de Zihuatanejo	En Japón, sellan cápsula del tiempo con mensaje de estudiantes y periodistas de # Zihuatanejo # Guerrero	総合面(3頁)	1.当課題研究の成果である	http://abcdezihuatanejo.com/japon-sellan-capsula-del-tiempo-mensaje-estudiantes-periodistas-zihuatanejo/
2018	2017/12/27	Las Coasta	Sellan Cápsula del Tiempo en Japón		1.当課題研究の成果である	
2018	2018/3/29	El Universal	El gran terremoto y tsunami de 1787 que azotó México	科学面	1.当課題研究の成果である	http://www.eluniversal.com.mx/ciencia-y-salud/ciencia/el-gran-terremoto-y-tsunami-de-1787-que-azoto-mexico
2018	2018/4/3	Quinta Fuerza	México será el tercer país con tecnología de punta para estudiar terremotos y tsunamis	科学面	1.当課題研究の成果である	https://quintafuerza.mx/mexico/sera-el-tercer-pais-con-tecnologia-de-punta-para-estudiar-terremotos-y-tsunamis/
2018	2018/4/4	La Jornada	Dona Japón un Geoslicer, que mide el peligro de sismos y maremotos	社会面	1.当課題研究の成果である	www.jornada.com.mx/2018/04/04/sociedad/040n2soc
2018	2018/4/4	ALIAZA TEX	UNAM utiliza tecnología de punta para estudiar terremotos y tsunamis		1.当課題研究の成果である	http://www.alianzatex.com/nota.php?nota=N0055327
2018	2018/4/4	Canal 6 Tecpan	POR PRIMERA VEZ EN MÉXICO. LA UNAM USA TECNOLOGÍA DE PUNTA PARA ESTUDIAR TERREMOTOS Y TSUNAMIS	TV報道	1.当課題研究の成果である	https://www.youtube.com/watch?v=F_SwSDihP5Q
2018	2018/5/21	E TV	LA UNAM USA TECNOLOGÍA DE PUNTA PARA ESTUDIAR TERREMOTOS Y TSUNAMIS	TV報道	1.当課題研究の成果である	
2018	2018/7/14	Quadratin Guerrero	Agencia japonesa dona equipo de rescate a vecinos de Zihuatanejo	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	https://guerrero.quadratin.com.mx/agencia-japonesa-dona-mochilas-para-rescate-de-personas-en-zihuatanejo/
2018	2018/7/14	El Sur	Dona una agencia japonesa mochilas para emergencias a voluntarios de Zihuatanejo	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	https://suracapulco.mx/impreso/2/dona-una-agencia-japonesa-mochilas-para-emergencias-a-voluntarios-de-zihuatanejo/
2018	2018/7/15	La Voz de Zihuatanejo	PC capacita equipos de respuesta a emergencias comunitarias	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	http://www.vozihuatanejo.com.mx/index.php?news=27098
2018	2018/8/20	Digital Guerrero	LA HIPÓTESIS DEL GRAN SISMO CON TSUNAMI, POR LA BRECHA DE GUERRERO	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	https://www.digitalguerrero.com.mx/guerrero/la-hipotesis-del-gran-sismo-con-tsunami-por-la-brecha-de-guerrero/

2018	2018/9/6	AMEXCID	Entrevista I Especialista Genta Nakano	インタビュー動画	1.当課題研究の成果である	https://www.gob.mx/amexcid/videos/entrevista-i-especialista-genta-nakano?idiom=es
2018	2018/9/28	El Universal	¿Un tsunami puede golpear a México? La respuesta es sí	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	http://www.eluniversal.com.mx/ciencia-y-salud/un-tsunami-puede-golpear-mexico-la-respuesta-es-si
2018	2018/10/5	TV UNAM	Simbiosis MX "La amenaza de un sismo peor"	TV報道	1.当課題研究の成果である	https://www.youtube.com/watch?v=-2NdPxxvIBb4
2018	2018/10/14	NoticiasPV.com	Japón forma parte de la caravana de prevención de tsunamis en PV	インターネット記事	2.主要部分が当課題研究の成果である	http://www.noticiaspv.com/japon-forma-parte-de-la-caravana-de-prevencion-de-tsunamis-en-pv/
2018	2018/10/14	Vallarta Independiente	Realizan Caravana de la Prevención acerca de fenómenos hidronaturales	インターネット記事	2.主要部分が当課題研究の成果である	https://vallartaindependiente.com/2018/10/14/realizan-caravana-de-la-prevencion-acerca-de-fenomenos-hidronaturales/
2018	2018/10/15	20 Minutos	Efectúan Seminario de gestiones y respuesta a tsunamis en Jalisco	インターネット記事	2.主要部分が当課題研究の成果である	https://www.20minutos.com.mx/noticia/432363/0/efectuan-seminario-de-gestiones-y-respuesta-a-tsunamis-en-jalisco/
2018	2018/10/15	NNC/Puerto Vallarta	Buscan Autoridades Fortalecer la Cultura de la Autoprotección	インターネット記事	2.主要部分が当課題研究の成果である	https://www.nnc.mx/articulo/portada/buscan-autoridades-fortalecer-la-cultura-de-la-autoproteccion/1539586493
2018	2018/10/15	Vallarta Independiente	Vallarta es sede de Seminario Internacional de Gestiones y Respuesta a Tsunamis	インターネット記事	2.主要部分が当課題研究の成果である	https://vallartaindependiente.com/2018/10/15/vallarta-es-sede-de-seminario-internacional-de-gestiones-y-respuesta-a-tsunamis/
2018	2018/10/15	NoticiasPV.com	Puerto Vallarta, Sede de seminario internacional de gestiones y respuesta al riesgo de tsunamis	インターネット記事	2.主要部分が当課題研究の成果である	http://www.noticiaspv.com/puerto-vallarta-sede-de-seminario-internacional-de-gestiones-y-respuesta-al-riesgo-de-tsunamis/
2018	2018/10/15	Semanario Monitor	Vallarta se coloca a la vanguardia en materia de Protección Civil	インターネット記事	2.主要部分が当課題研究の成果である	http://www.semanariomonitor.com/puerto-vallarta/vallarta-se-coloca-a-la-vanguardia-en-materia-de-proteccion-civil/
2018	2018/10/15	Tribuna de la Bahía	¿Qué hacer ante tsunamis y sismos?... Llega a Puerto Vallarta la "Caravana de Prevención"	インターネット記事	2.主要部分が当課題研究の成果である	http://www.tribunadelabahia.com.mx/que-hacer-ante-tsunamis-y-sismos-llega-a-puerto-vallarta-la-caravana-de-la-prevencion/
2018	2018/10/18	El Sur	Piden científicos de Japón y de la UNAM continuar estudios sobre sismos en Guerrero	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	https://suracapulco.mx/2018/10/18/piden-cientificos-de-japon-y-de-la-unam-continuar-estudios-sobre-sismos-en-guerrero/
2018	2018/10/18	Despertar de la Costa	Continúan programa de reducción de riesgos por sismos y tsunamis	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	http://www.despertardelacosta.info/news/continuan-programa-de-reduccion-de-riesgos-por-sismos-y-tsunamis/
2018	2018/10/18	Rafaga Noticiera	Científicos japoneses prosiguen proyecto para prevención de tsunamis y Sismos en Zihuatanejo	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	http://www.rafaganoticiera.com/2018/10/cientificos-japoneses-prosiguen-proyecto-para-prevencion-de-tsunamis-y-sismos-en-zihuatanejo.html
2018	2018/10/18	Quadratin Guerrero (メキシコ)	Preocupa a científicos de UNAM y Japón posible gran sismo en Costa Chica	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	https://guerrero.quadratin.com.mx/preocupa-a-cientificos-de-unam-y-japon-posible-gran-sismo-en-costa-chica/
2018	2018/10/19	Diario ABC	Insisten en la capacitación para disminuir riesgos ante un tsunami	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	https://abcdezihuatanejo.com/insisten-en-la-capacitacion-para-disminuir-riesgos-ante-un-tsunami/
2018	2018/10/19	Novedades Acapulco	Costa Chica tiene más posibilidades de gran sismo y tsunami	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	https://novedadesaca.mx/costa-chica-gran-sismo-tsunami/

2018	2018/10/18	Meganoticias	Científicos japoneses piden continuidad a estudio de sismos	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	https://www.meganoticias.mx/ixt-apa-zihuatanejo/noticia/cientificos-japoneses-piden-continuidad-a-estudio-de-sismos/35954
2018	2018/10/19	Meganoticias	Programa de prevención de tsunamis se extenderá; Guerrero	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	https://www.meganoticias.mx/ixt-apa-zihuatanejo/noticia/programa-de-prevencion-de-tsunamis-se-extendera-guerrero/36180
2018	2018/12/11	AMEXCID	México y Japón avanzan para la mitigación de desastres	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	https://www.gob.mx/amexcid/prensa/mexico-y-japon-avanzan-para-la-mitigacion-de-desastres
2018	2018/12/16	Foro TV	Descifrando el Próximo Gran Terremoto en México	TV報道	1.当課題研究の成果である	
2018	2019/3/8	TV UNAM	70 años de vida académica de Instituto de Geofísica UNAM	TV報道/ビデオ	3.一部当課題研究の成果が含まれる	https://www.youtube.com/watch?v=Qr_ezrqxCBw
2019	2019/3/10	NHK Eテレ	サイエンスZERO「巨大地震予測の新たなカギ スロースリップ」	TV報道	3.一部当課題研究の成果が含まれる	
2019	2019/10/17	しまんとケーブル	メキシコ防災関係者が防災教育視察	TV報道	1.当課題研究の成果である	http://40010kosha.heteml.jp/40010catv/blog/2019/10/593-1.html
2019	2019/11/1	mundi 2019年11月号	巨大地震・津波を予測し備える メキシコ	JICA広報誌	1.当課題研究の成果である	https://www.jica.go.jp/publication/mundi/1911/ku57pq0002llba-att/08.pdf
2019	2019/11/4	Diario de Colima	Gobierno del Estado y Cenapred capacitan en prevención de riesgos, en Manzanillo	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	https://diariodecolima.com/noticias/detalle/2019-11-04-gobierno-del-estado-y-cenapred-capacitan-en-prevencion-de-riesgos-en-manzanillo
2019	2019/11/5	AF Medios	Prevención, esquema más efectivo para aminorar afectaciones por tsunamis: expertos	インターネット記事	1.当課題研究の成果である	https://www.afmedios.com/2019/11/prevencion-esquema-mas-efectivo-para-aminorar-afectaciones-por-tsunamis-expertos/
2020	2019/1/18	NHK	世界に伝える 震災の記憶	TV報道	3.一部当課題研究の成果が含まれる	https://www.nhk.or.jp/osaka-blog/weekend/418890.html
2019	2020/1/17	NHKニュースウォッチナイン	阪神淡路大震災の経験を世界に発信する	約7分間の映像。シワタネホでの防災活動が主に報道	2.主要部分が当課題研究の成果である	
2019	2020/1/18	NHKウィークエンド関西	阪神淡路大震災の経験を世界に発信する	約7分間の映像。シワタネホでの防災活動が主に報道	2.主要部分が当課題研究の成果である	
2019	2019/7/13	Diario ABC Zihuatanejo(シワタネホ地元紙)	Hacen simulacro de sismo de magnitud 8.2 en Inf, El Hujal (エルハラル地区で地震を想定した訓練)	https://abcdezihuatanejo.com/hacen-simulacro-de-sismo-de-magnitud-8-2-en-inf-el-hujal/	1.当課題研究の成果である	
2019	2019/7/9	Diario ABC Zihuatanejo(シワタネホ地元紙)	Población debe adoptar la cultura de la protección personal (自助の文化を市民は育まなければならない)	https://abcdezihuatanejo.com/poblacion-debe-adoptar-la-cultura-de-la-proteccion-personal/	1.当課題研究の成果である	
2019	2019/7/17	Despertar de la costa(シワタネホ地元紙)	INCLUIR DATOS DE TSUNAMIS EN LIBROS DE TEXTO. PLANTEA EXPERTO JAPONÉS (日本人専門家は津波のデータを教科書に加えることを計画している)	https://despertardelacosta.net/index.php/2019/07/17/incluir-datos-de-tsunamis-en-libros-de-texto-plantea-experto-japones/	1.当課題研究の成果である	
2020	2021/3/2	読売テレビ	ゲキ追X/南海トラフから命を守れ ～関西で進む“南海トラフ対策”最前線～	情報ネットten.	3.一部当課題研究の成果が含まれる	https://www.ytv.co.jp/ten/feature/
2021	2021/4/17	El Pais Mexico	Mapa de los terremotos: el 30% de México bajo un alto riesgo sísmico	ウェブ記事	1.当課題研究の成果である	https://elpais.com/mexico/2021-04-18/en-la-busqueda-del-proximo-gran-terremoto-en-la-brecha-sismica-de-guerrero.html
2021	2021/4/19	El Heraldo	Los últimos cuatro terremotos de gran magnitud en México fueron precedidos por sismos lentos	ウェブ記事	1.当課題研究の成果である	https://www.elheraldodesaltillo.mx/2021/04/19/los-ultimos-cuatro-terremotos-de-gran-magnitud-en-mexico-fueron-precedidos-por-sismos-lentos/
2021	2021/4/19	Gaceta UNAM	Hay sismos lentos que duran hasta ocho meses	ウェブ記事	1.当課題研究の成果である	https://www.gaceta.unam.mx/hay-sismos-lentos-que-duran-hasta-ocho-meses/

2021	2021/4/19	Boletín UNAM	Los últimos cuatro terremotos de gran magnitud en México fueron precedidos por sismos lentos	ウェブ記事	1.当課題研究の成果である	https://www.dgcs.unam.mx/boletin/bdboletin/2021_336.html
2021	2021/4/16	NHK関西	大地震とスロースリップの関連判明 京大など研究グループ発表	TV News	1.当課題研究の成果である	https://www3.nhk.or.jp/kansai-news/20210414/2000043960.html

131 件

VI. 成果発表等

(5) ワークショップ・セミナー・シンポジウム・アウトリーチ等の活動【研究開始～現在の全期間】(公開)

① ワークショップ・セミナー・シンポジウム・アウトリーチ等

年度	開催日	名称	場所 (開催国)	参加人数 (相手国からの招聘者数)	公開/ 非公開の別	概要
2016	2017/9/18	スロー地震を地震災害軽減に利用する	京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館	200	公開	京都大学アカデミックデイ2016にポスター出展し、本プロジェクトの計画等について一般市民を対象として説明を行った。来場者からのコメントとして(*賞と表現)以下のものがあつた:ズブの素人でも少しかつた賞、しっかり対話していただけたで賞、熱意があるで賞、タイミングまで予測してほしいで賞、これからも研究を頑張つてほしいで賞、研究のウラ話を赤裸々に話してくれたで賞、プロジェクトの成果として
2016	2016/9~11		メキシコ	小学生281名、中学生1492名、教職員79名、市民800名、ホテルスタッフ40名の計2,929名	公開	C-2グループの活動として、シワタネホ市で2016年9月~11月に合計2,929名を対象に津波防災教育を実施した。
2016	2017/12/19	海の下では地震の準備が進んでいる?	京都府福知山市立美河小学校	20	非公開	小学6年生を対象としてプロジェクトに関連した成果について出前授業を行った。一部
2016	2017/12/21	海の下では地震の準備が進んでいる?	京都府城陽市立深谷小学校	150	非公開	小学3-4年生を対象としてプロジェクトに関連した成果について出前授業を行った。一部
2016	2017/1/17	海底観測で覗く巨大地震発生域	京都府立福知山高等学校附属中学校	20	非公開	中学1年生を対象としてプロジェクトに関連した成果について出前授業を行った。一部
2016	2017/3/10	海底観測で覗く巨大地震発生域	京都府立峰山高等学校	40	非公開	高校1-3年生を対象としてプロジェクトに関連した成果について出前授業を行った。一部
2016	2017/3/13	El Papel de la Ciencia Social: Educacion sobre Terremoto y Tsunami	エクアドル国立工科大学	180	公開	メキシコにおける防災教育の内容についてエクアドル人(開催した国立工科大学以外の地方の大学、防災関連機関、消防関係者を含む)に対して紹介を行った。
2016	2017/3/14-16	Recent Advances in Earthquake, Tsunami, and Volcano Monitoring, Hazard Evaluation, and Disaster Management in Latin America	エクアドル国立工科大学	81(一般参加15名含む)	公開	エクアドルのJICA技術プロジェクト、コロンビアの地震・津波・火山防災プロジェクトと共同で、ラテンアメリカにおける地震・津波・火山防災に関するワークショップを開催した。本プロジェクトからも6件の公演が行われた。またすでに終了したチリおよびペルーの津波防災プロジェクトの関係者やネパールプロジェクトの緊急地震速報の研究者らを招聘した(予算はJST追加企画予算を使用した)
2017	2017/7/11-12	Japan-Mexico Joint Tsunami Evacuation drill		600	非公開	Secondary school students in Japan and Mexico exchanged their opinion about earthquake and tsunami through video conference.
2017	2017/11/5-6	Caravan of Prevention	Zihuatanejo de Azueta, Guerrero (メキシコ合衆国)	約500	公開	A two day activity in a public forum of Zihuatanejo de Azueta, Guerrero was organized to generate an interactive learning space opened to public. Important presence of students and young people was identified. The mobile unit of CENAPRED, named Caravan, was accompanied by other stands that belongs to agencies related to public security, civil protection, and health care.
2017	2018/11/6	Child contest on short story and painting 2017: Giant waves, a Tsunami!!	Zihuatanejo de Azueta, Guerrero (メキシコ合衆国)	193	公開	A contest was organized to investigate the perception of tsunami risk in school children of 5th and 6th grades of elementary school from 13 coastal municipalities of Guerrero state. Two categories were set: Short-story and painting. The six finalists, three of each category, were awarded in the frame of the World Tsunami Awareness Day comemoration, which was hold in Zihuatanejo de Azueta, Guerrero.
2017	2018/11/6	International Semminar: The earthquake and tsunami preparedness is also my responsibility	Zihuatanejo de Azueta, Guerrero (メキシコ合衆国)	193	公開	In th frame of the World Tsunami Awareness Day 2017, several organizations contributed to carry out an international semminar with the participation of Mexican, Chilean and Jappnesse experts. Most of the attendees came from the coastal municipalities of Guerrero state. The live broadcast in the Youtube channel of the Ministry of the Interior of Mexico reported 59 simultaneous access. Evidences and materials collected of this event are available in http://www.cenapred.unam.mx/es/index/avisos/seminario_tsunami_2017/index.php

2017	2017/12	Earthquake and Tsunami disaster education	Zihuatanejo de Azueta, Guerrero (メキシコ合衆国)	6000	公開	C-2グループの活動として、シワタネホ市で2017年12月に合計約6,000名を対象に津波防災教育を実施した。
2017	2017/12/14	The September 2017 Tehuantepec and Puebla Earthquakes in Mexico, 2017 AGU Fall Meeting	New Orleans, USA	200	公開	The session was organized during the AGU Fall Meeting to discuss recent earthquake events in Mexico.
2017	2018/1/8	地震の準備は海の下で進んでいる？	八幡市立有都小学校	30	非公開	メキシコにおける海底観測の紹介も含めた地震防災に関する講演を行った
2017	2018/1/23	地震の準備は海の下で進んでいる？	福知山市立佐賀小学校	30	非公開	メキシコにおける海底観測の紹介も含めた地震防災に関する講演を行った
2017	2018/1/29	海底観測で覗く南海トラフの巨大地震発生域	栃木県立宇都宮高等学校	250	非公開	メキシコにおける海底観測の紹介も含めた地震防災に関する講演を行った
2017	2018/3/1	Learning from the Tohoku earthquake, and facing toward the Hikurangi earthquake: Ocean bottom seismology and geodesy	Victoria University of Wellington, Wellington, New Zealand	30	公開	メキシコにおける海底観測の紹介も含めた地震防災に関する日本の活動を紹介した
2017	2018/3/2	Learning from the Tohoku earthquake, and facing toward the Hikurangi earthquake: Ocean bottom seismology and geodesy	National Aquarium of New Zealand, Napier, New Zealand	75	公開	メキシコにおける海底観測の紹介も含めた地震防災に関する講演を行った
2017	2018/3/20-21	Aportes educativos para la reducción del riesgo de sismos y tsunamis en municipios costeros del estado de Guerrero	Chilpancingo, Mexico	約25	公開	The workshop was organized to exchange information on non-formal education models and experiences regarding earthquake and tsunami mitigation. It was attended by the representatives of civil protection from all coastal municipalities of Guerrero, experts from CENAPRED/Kyoto University and trainers from the Secretary of Civil Protection in Guerrero.
2018	2018/5/14-17	The Recent Earthquakes that Shocked Mexico in September 2017, Seismology of the Americas Meeting (Latin American and Caribbean Seismological Commission Seismological Society of America)	Miami, Florida	60	公開	The session was organized during the Seismology of the America meeting to discuss recent earthquake events in Mexico.
2018	2018/5/23-24	Mexico-France workshop	UNAM, Mexico	約25	公開	
2018	2018/8/9	Nagoya City Assembly Official Delegation 2018	UNAM, Mexico	12	公開	名古屋市とCDMXの姉妹都市交流の一環として、名古屋市副議長木下まさる氏ほか3名の市議がUNAM地球物理学研究所を訪問、本プロジェクトの成果発表を行った
2018	2018/10/14-15	世界津波の日イベント	ハリスコ州プエルトルバイタル市	600	公開	CENAPREDと共同で世界津波の日になんだイベントを開催した。イベントではプロジェクトメンバーによる市民向け講演やCENAPREDが所有する移動防災展示車等を用いた展示実演を実施した。
2018	2018年11月5-6	SATREPS Workshop for JST Mid-term Evaluation	UNAM, Mexico	約30	公開	JST中間評価の一環として、UNAMIにて2日間のセミナーを開催し、各グループの進捗状況に関するプレゼンテーションを実施した。
2019	2019/5/28	Presentation of the SATREPS Project to the new Mexican authorities	AMEXCID, Mexico	約20	非公開	メキシコの政権交代を受けて、主要カウンターパートの新幹部に対してプロジェクト紹介を行った。
2019	2019/11/4-5	世界津波の日イベント	コリマ州マンサニョ市	160	公開	CENAPRED・コリマ州防災局と共同で世界津波の日になんだイベントを開催した。イベントではプロジェクトメンバーによる市民向け講演やCENAPREDが所有する移動防災展示車等を用いた展示実演を実施した。
2019	2019/11/25-26	シワタネホ市当局・ホテル関係者との会合	ゲレロ州シワタネホ市	50	非公開	シワタネホ市防災当局との防災教育に関する定期会合、および同市内のホテル関係者を集めた防災セミナーを実施した。
2019	2019/11/28	防災教育セミナー	ゲレロ州アカプルコ市	100	公開	ゲレロ州防災局・CENAPREDと共同で、ゲレロ州沿岸自治体に防災教育の手法を展開するためのセミナーを実施した。
2019	2019/11/29	Pre-JCC Meeting	UNAM, Mexico	15	非公開	プロジェクト責任者及びCグループのリーダー・メンバーとともに、社会実装の進捗及び翌年度以降の活動に関する計画を議論した。
2019	2019/10/7	地震防災授業	黒潮町佐賀中学校 (日本)	60	非公開	伊藤准教授・ゲレロ州防災局職員・シワタネホ市防災局職員によるメキシコSATREPSプロジェクトの紹介および地震防災授業

2019	2019/10/8	地震防災授業	黒潮町大方高校 (日本)	10	非公開	伊藤准教授・ゲレロ州防災局職員・シワタネホ市防災局職員によるメキシコSATREPSプロジェクトの紹介および地震防災授業
2019	2019/11/4-5	防災キャラバン(市民向け防災教育教室)	マンサニージョ (メキシコ)	一般市民	公開	マンサニージョ市中心部の公園にて防災教育教室を開催。市民が自由に訪れ、地震・津波などについて学べる教材・授業を実施
2019	2019/11/5	世界津波の日記念セミナー	マンサニージョ (メキシコ)	170	公開	メキシコ連邦政府・コリマ州政府・市政府の防災関係者らを招へいし、地震・津波防災セミナーを開催
2019	2019/11/15	シワタネホ市政府主要関係者と観測船エル・プーマを接続し、海底観測活動の進捗共有	シワタネホ市役所および観測船エルプーマ (メキシコ)	25人 (19人)	非公開	市役所関係者へ海底観測活動と進捗を紹介するため、観測船エル・プーマ号と市役所とをテレビ電話で接続。観測機器の紹介や地震・津波リスクを説明。
2019	2019/11/25	シワタネホ市政府主要関係者へのSATREPSプロジェクト成果共有	シワタネホ市役所 (メキシコ)	25人 (20人)	非公開	伊藤准教授、矢守教授、サントヨ教授、岩堀研究員、中野研究員が出席しSATREPSプロジェクトの成果を共有
2019	2019/11/28	防災教育実践手法の普及セミナー	アカブルコ市 (メキシコ)	100	非公開	地震・津波リスクが高いゲレロ州沿岸13市の防災関係者・教育関係者らを招へいし、地震・津波リスク、防災教育手法に関する成果共有
2019	2019/10/20	防災国体	名古屋市コンベンションセンター	50	公開	本プロジェクトの活動内容の紹介
2019	2019/9/3	MACプロジェクトセミナー	チリ・チロス島カストロ	50	公開	SATREPSチリMACプロジェクトと連携したアウトリーチ活動。本プロジェクトの活動内容の紹介
2019	2019/9/4	MACプロジェクトセミナー	チリ・テムコ市	50	公開	SATREPSチリMACプロジェクトと連携したアウトリーチ活動。本プロジェクトの活動内容の紹介
2019	2019/9/4	MACプロジェクトJCCミーティング	チリ・テムコ市	30	非公開	SATREPSチリMACプロジェクトと連携したアウトリーチ活動。本プロジェクトの活動事例の紹介と社会実装に向けた自治体との取り組み事例に関する情報共有
2020	2020/1/23-2020/1/28	防災教育セミナー・フィールドワーク	京都大学宇治キャンパス・高知県自治体	10	非公開	国内の防災教育の先進事例に関して、メキシコ側メンバー及びJICA関係者を交えて議論・現場視察
2020	2020/6/16	C-2グループリーダー会議	Web会議	8	非公開	防災教育活動の進捗と今後の計画を確認
2020	2020/7/7	「災害時の心のケア」セミナー	Web会議	6500	公開	感染症下での心のケアをテーマとし、JICAメキシコ事務所とメキシコ側C/Pの共催で実施
2020	2020/7/27	aXisキックオフミーティング	Web会議	18	非公開	各研究題目の計画に関してJST関係者と日本側メンバーで議論
2020	2020/8/7	JICA全体進捗ミーティング	Web会議	10	非公開	プロジェクト全体の進捗及び活動計画を確認
2020	2020/9/17	市民防災週間セミナー	Web会議	2000	公開	CENAPRED主催、本プロジェクトの防災教育の取り組み等についてメキシコ側関係者に紹介
2020	2020/9/21	プエブラ州防災セミナー	Web会議	100	公開	緊急地震速報の日本での運用状況など防災に関する最新の知見をプエブラ州防災当局と共有
2020	2020/9/24	C-1グループリーダー会議	Web会議	8	非公開	脆弱性評価の調査計画および避難シミュレーションの進捗を確認
2020	2020/9/17	Semana Nacional de Proteccion Civil 2020(メキシコ防災ウィーク2020に関するセミナー)	YouTubeによるオンライン配信 (メキシコ)	2021年3月24日現在、同動画は2000回以上再生	公開	カウンターパート機関でもあるメキシコ国立防災センターが主催し、中野元太(京都大学)が“災害被害軽減のための地域・学校・行政が連携した共同実践”と題した発表を行った。
2020	2020/11/5	Seminario Internacional Tsunamis en Mexico(世界津波の日記念セミナー)	YouTubeによるオンライン配信 (メキシコ)	2021年3月24日現在、同動画は1740回以上再生	公開	カウンターパート機関でもあるメキシコ国立防災センターと共催し、中野元太(京都大学)が“メキシコと日本における防災教育の異同”と題した発表を行った。
2020	2020/11/24	JST全体進捗ミーティング	Web会議	10	非公開	aXis/SATREPSの進捗に関してJST関係者と日本側メンバーで議論
2020	2021/2/6	C-1グループリーダー会議	Web会議	8	非公開	シワタネホ市における構造物脆弱性評価と表層地盤応答調査の進捗を確認
2020	2021/2/12	第1回サイエンスウェビナー	Web会議	30	非公開	各グループの進捗に関する発表6件と討議を実施
2020	2021/2/19	第2回サイエンスウェビナー	Web会議	30	非公開	各グループの進捗に関する発表5件と討議を実施
2020	2021/2/26	第3回サイエンスウェビナー	Web会議	30	非公開	各グループの進捗に関する発表6件と討議を実施
2020	2021/3/5	C-1グループリーダー会議	Web会議	10	非公開	シワタネホ市における構造物脆弱性評価と表層地盤応答調査の結果を確認

2020	2021/3/29	JST全体進捗ミーティング	京都大学宇治 キャンパス	10	非公開	aXis/SATREPSの進捗に関してJST関係者と日本側メンバーで議論

58 件

②合同調整委員会(JCC)開催記録(開催日、議題、出席人数、協議概要等)

年度	開催日	議題	出席人数	概要
2016	2017/11/4	1. 2016年の進捗状況、 2. プロジェクト概要 3. 2017年活動計画 4. JCC合意事項の確認	20	第1回JCC会議をメキシコ外務省の会議室で行った。進捗状況や今後の計画をグループリーダーが報告したのち、以下の変更事項について確認された。 1. 活動地域にベタランを加えること。 2. Project Design Matri の修正事項の確認 3. 日本側からの3台の海底圧力計の投入 4. JICA予算で投入するGPSレシーバの数の変更(12台から11台)
2017	2018/12/7	1. 2017年の進捗状況、 2. プロジェクト概要 3. 2018年活動計画 4. JCC合意事項の確認	30	2017年1月から12月までの実施事項の概要及び2018年1月から12月までの活動予定について報告した。
2018	2018/12/6	1. 2018年の進捗状況、 2. プロジェクト概要 3. 2019年活動計画 4. JCC合意事項の確認	25	2018年1月から12月までの実施事項の概要及び2019年1月から12月までの活動予定について報告した。
2019	2019/12/5	1. 2019年の進捗状況、 2. プロジェクト概要 3. 2020年活動計画 4. JCC合意事項の確認	25	2019年1月から12月までの実施事項の概要及び2020年1月から12月までの活動予定について報告し、PDM上の都市名の記載内容について修正事項を議論した。また2021年3月に実施予定の最終ワークショップについても計画策定を行った。
2020	2020/12/3	直近の活動と今後の予定について、研究期間の延長について	20	Zoomを利用してJCC会議を実施した。研究期間の1年間の延長を検討していることに関する両国および各機関との意見のすり合わせを行なった。(日本時間12月3日、メキシコ時間12月2日)

5 件

成果目標シート

研究課題名	メキシコ沿岸部の巨大地震・津波災害の軽減に向けた総合的研究
研究代表者名 (所属機関)	伊藤 喜宏 (京都大学防災研究所)
研究期間	H27採択(平成27年6月1日～令和4年3月31日)
相手国名／主要相手国研究機関	メキシコ合衆国／メキシコ自治大学、国立防災センター

上位目標

中南米・カリブ地域に津波減災教育プログラムが普及・活用される。
 ゆっくり地震と巨大地震発生プロセスが本質的に理解される。
 メキシコ国内においてリアルタイム津波システムが構築される。

メキシコ国内の政策に地震・津波ハザードマップが採用される。
 メキシコ国内で津波減災教育プログラムが活用される。

プロジェクト目標

観測事実 に即した地震・津波シナリオおよび地震・津波ハザードマップの提示
 減災教育プログラムの開発と政府・地域コミュニティへの提案および認知

付随的成果

日本政府、社会、産業への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ沿いの巨大地震・津波災害軽減の取り組みへの活用 ・日本国内における地震・津波減災教育プログラムの改善
科学技術の発展	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり地震と巨大地震の相互作用の解明 ・確率論的津波予測手法の確立および発展
知財の獲得、国際標準化の推進、生物資源へのアクセス等	<ul style="list-style-type: none"> ・海底圧力計を利用した準リアルタイム観測技術の国際標準モデルの確立 ・中南米地域用スペイン語版津波減災プログラムの開発 ・スペイン語圏用の津波避難標識の開発
世界で活躍できる日本人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的に活躍可能な日本側の若手研究者の育成(国際会議への指導力、レビュー付雑誌への論文掲載など)
技術及び人的ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・メキシコ海底地震・測地学分野の構築 ・災害軽減プログラム実施コミュニティの構築
成果物(提言書、論文、プログラム、マニュアル、データなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・海底・陸上地震地殻変動観測網、地震・津波リスクマップ、地震・津波ハザードマップ、リスクマップ、減災教育プログラム、避難アプリ、津波避難誘導標識、減災行動計画提言書

